

～複言語・複文化教育と  
東アジア共生の可能性～

2017年度

第12回日韓大学生国際交流セミナー報告書

主催 お茶の水女子大学日本語教育コース  
グローバル文化学環・国際教育センター  
協力 韓国・釜山外国語大学校

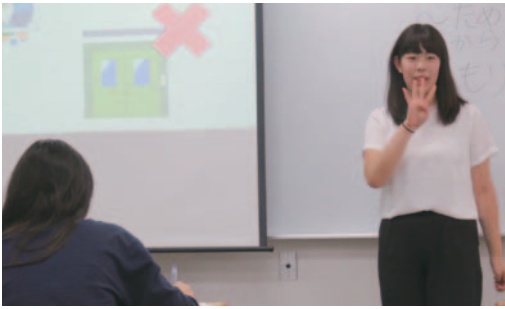




日本語教育実習修了式



横断幕の前で



実習風景（山田 美奈さん）



実習風景（千 イスリさん）



実習風景（山口 未来さん）



実習風景（山田 亜美さん）



実習風景（近澤 里奈さん）



実習風景（和田 夏海さん）



第1回日韓学生フォーラム



## 目次

第12回日韓大学生国際交流セミナー概要（森山新）	1
参加学生の修了レポート	5
<b>資料</b>	
実習生が作成した教案	29
実習生が作成した配布資料	49
第1回日韓学生フォーラムハンドアウト	70
実習報告ハンドアウト	77
<b>総評</b>	
佐々木馨	83
森山新	86
<b>実習の成果と課題</b>	
東アジアシティズンシップ教育としての複言語・複文化プログラム（森山新）	88
編集後記	92



# 第 12 回日韓大学生国際交流セミナー概要

## ～複言語・複文化教育と東アジア共生の可能性～

森山新（お茶の水女子大学）

### 1. 概要

日時 2017年8月7日（月）～9月16日（土）

場所 釜山外国語大学校（大韓民国釜山広域市）

主催 お茶の水女子大学国際教育センター・グローバル文化学環・日本語教育コース

協力 釜山外国語大学校

2004年に第1回が行われ、今回が第12回となる日韓大学生国際交流セミナーは、本学から8名の学生が参加し、韓国の協定校である釜山外国語大学校で実施された。第11回までは同じく協定校である同徳女子大学校との間で、日韓両国間にまたがる諸問題を取り上げ、両国の学生が話し合いを通じ解決をみざすという形で実施されて来た。そして戦後70年、日韓国交回復50周年を迎えた2015年度の第10回セミナーにおいて、両国の学生が戦後70年日韓学生共同宣言を発表、両国が過去を直視し、互いが納得のいく議論の下、真の未来志向の関係を構築するまでに至った。また12月には日韓文化交流基金の助成のもと、35名の学生を連れて韓国の同徳女子大学校、啓明大学校、釜山外国語大学校を訪れ、戦後70年を記念し、4大学合わせて150名近くの学生が集い、国際学生フォーラムを開催、日韓両国の過去（同徳女子大）、現在（啓明大）、そして未来（釜山外大）を語る場を持つことができた。

このような成果のもとで、昨年度は対立から共生へ向けた新たな段階への過渡期として、これまで同様、同徳女子大学校との間で第11回セミナーを実施する一方、2016年度に協定を締結した釜山外国語大学校が実施する韓国語・韓国文化を学ぶプログラム（韓国語短期研修）と、日本語・日本文化を教えるプログラム（日本語教育実習）とを合体することで、新たな理念のもと、「複言語・複文化プログラム」を構築し、日韓大学生国際交流セミナーは言語・文化を越えたシティズンシップ、国家を越えたインターナショナルなアイデンティティ形成、そしてそれに基づいた東アジアの共生に向け、より高い次元に向かってさらなる一歩を踏み出した。

今回はその第2回目として、8名の学生が本プログラムに参加した。8月7日から26日までの3週間は韓国語研修に参加、韓国語・韓国文化を学ぶとともに、決定した指導教員とのコンタクトを開始し、後半の日本語教育実習に備えた。9月3日から15日までの2週



間はそれぞれの指導教員のもと、日本語教育実習に参加、日本語と日本文化を教える体験をした。9月14日には6週間に及ぶセミナーの集大成として、「第1回日韓学生フォーラム」を開催し、日韓は対立から共生へ重要かつ具体的な第一歩を踏み出した。

なお、本プログラムは、学部生は「多文化交流実習Ⅲ・Ⅳ」を、大学院生は「日本語教育方法論演習」を履修して参加した。4月に参加者を募集し、5月～7月には毎週事前学習を行った。3か月間の事前学習では、本複言語・複文化プログラムの理念である「複言語・複文化主義 (plurilingualism, pluriculturalism)」、「インターカルチュラル・シティズンシップ教育 (intercultural citizenship education)」としての外国語教育を学び、その上で釜山外国語大学が採用している「ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages)」や「CAN-DO ステートメント」を紹介、それらに基づいた具体的な教案作成の方法などを学び、実際の教壇実習に臨んだ。

残念ながら東アジアにはヨーロッパのようなともに生きるための地域連合体もなく、それをめざすための教育理念も教育政策もない。そのような中、釜山外国語大学の協力のもと、本学が歩み始めた本プログラムが、対立の多い日韓、そして東アジアに、和解と共生をもたらす第一歩となれば幸いである。

なお、本プログラムは日本学生支援機構の短期派遣プログラム、およびお茶の水女子大学奨学金などの支援を受け、学生が派遣されている。

## 2. 日程表

月日 (曜日)	複言語プログラム	複文化プログラム
4月	説明会・参加者募集	
5月～7月	事前学習 (毎週月曜9-10時間目)	
8月 7日 (月)	訪韓・入寮	
8月 8日 (火)	韓国語研修入学式 レベルテスト	交流会
8月 9日 (水)	韓国語授業開始 (～24日)	キャンパスツアー
8月10日 (木)		韓国文化特別講義
8月11日 (金)		亀浦ナル観光 釜山国際ロックフェスティバル
8月12日 (土)		韓服体験・伝統遊戯・市内観光
8月15日 (火)	韓国人学生とのプロジェクトワーク	
8月16日 (水)		K-POP ダンス・韓国歌謡
8月17日 (木)		K-POP ダンス・韓国歌謡
8月18日 (金)		韓国映画鑑賞
8月19日 (土)		韓国料理体験 海東竜宮寺・マリンシティ
8月21日 (月)		テコンドー体験

8月22日(火)		文化探訪：楽安邑城跡・順天湾国立庭園
8月23日(水)		文化探訪：東陂浪壁画村・巨濟風の丘・鶴洞海岸
8月24日(木)	韓国語試験	
8月25日(金)	韓国語研修修了式	送別会
8月26日(土)	自主学習・指導教員との事前ミーティング(～9月2日)	
9月3日(日)	日本語教育実習開講式	文化体験(甘川文化村)
9月4日(月)	授業見学開始(～8日)	
9月11日(月)	教壇実習開始(～15日)	
9月14日(木)	第1回日韓学生フォーラム・懇親会	
9月15日(金)	日本語教育実習修了式	
9月16日(土)	帰国の途へ	
10月11日(水)	実習報告会実施	
10月13日(金)	参加者報告書提出	
12月25日(月)	報告書完成	

### 3. 実習見学日程

月日	曜	授 業	ミーティング・模擬授業
9/11	月	和田・山口・千・近澤	
9/12	火	高橋・山田(亜)・山田(美)	
9/13	水	千	
9/14	木	高橋・山口・山田(美)・近澤・和田	山田(亜)
9/15	金	山田(亜)	山田(美)

### 4. 参加者

氏 名	所属・学年	韓国語 クラス	日本語 クラス	実習指導 担当教員
近澤里奈	言語文化学科1年	レベル1	B1-2	柴田文武
山田亜美	言語文化学科1年	レベル1	B1-1	堀 浩子
山口未来	人文科学科(グロ文)2年	レベル3	B2-1	諏訪昭宏
高橋恵理	人文科学科(グロ文)2年	レベル3	B2-2	澤井亮佑
山田美奈	言語文化学科(グロ文)3年	レベル3	B1-2	二色廣樹
千イスリ	言語文化学科(グロ文)3年		B2-1	松浦恵子
和田夏海	日本語教育コースM1年	レベル3	B1-2	柴田文武
アヤ・ザクルール	日本語教育コースM1年	レベル1		

注) 韓国語研修クラスはレベル1(初級)～4(上級)に分かれ実施されている。

## 5. 日本語教壇実習日程

氏名	月	火	水	木	金
近澤里奈	16:00-18:00			13:00-15:00	
山田亜美		15:00-17:00			13:00-15:00
山口未来	13:00-15:00			12:00-14:00	
高橋恵理		10:00-12:00		10:00-12:00	
山田美奈		12:00-14:00		12:00-14:00	
千イスリ	14:00-16:00		16:00-18:00		
和田夏海	12:00-14:00			16:00-18:00	

注) 担当以外の授業見学、及び指導教員との事前・事後打ち合わせや模擬授業を除く

## 6. スタッフ

大学	名前	所属	役職
お茶の水女子大学	森山 新	グローバル文化学環	教員
お茶の水女子大学	佐々木馨	大学院人間文化創成科学研究科	院生
お茶の水女子大学	野村琴菜	大学院人間文化創成科学研究科	院生
釜山外国語大学校	松浦恵子	日本語創意融合学部	教員
釜山外国語大学校	諏訪昭宏	日本語創意融合学部	教員
釜山外国語大学校	柴田文武	日本語創意融合学部	教員
釜山外国語大学校	堀 浩子	日本語創意融合学部	教員
釜山外国語大学校	二色博樹	日本語創意融合学部	教員
釜山外国語大学校	澤井亮佑	日本語創意融合学部	教員

## 日韓人としての自覚と責任感

### 1. 韓国のことばと文化を学んで

韓国語研修では、韓国語の文法を韓国語で習うという直接法で授業を受けた。時に、英語を使用する場面もあったがほぼ韓国語による授業だった。これまで私が受けた外国語の授業は日本語で説明を受ける間接法によるものだったので初めての直接法による外国語の授業はいろいろな違いがあり興味深かった。まず、先生のジェスチャーや表情が豊かであることが挙げられる。新出の単語を学ぶときは、先生が韓国語で説明するのだがジェスチャーや表情が豊かで学習者の私たちも自然と表情が緩んだりしてとても良いクラスの雰囲気だった。分かりやすいだけではなく、クラスの緊張をほぐすという理由からも良い効果があると思い後半の実習に取り入れたいと考えた。直接法によるメリットは、文脈が切り取られないため学んだ言葉を実際の場面ですぐに使うことができる点である。街で韓国語を使うときに何て言おうか考えるのに日本語が媒介していないことに気づいたとき、今まで感じたことのない不思議な感覚を感じた。この場面ではこの単語やフレーズという場面の中で言葉を覚えることで、単語を使うときにこの単語は今使うことができるのかどうかという不安や迷いが低減すると考える。また、クラスにおいて韓国語が主要言語であったために抵抗感なく発言することができることもメリットの一つである。実際、クラスだけでなく街中で買い物をしたり、韓国人と会話したりなど様々な場面で韓国語を話す機会が多くあった。今までは完璧な文章でないと言話をためらったりしていたが、今回は分からないと困るという必要性にも後押しされ、積極的に話すことができた。

しかし、直接法はメリットだけではない。まず一つに語彙力がある程度ないと授業についていくのが難しいという点が挙げられる。私のクラスは秋クラスで主に初級終了・中級レベルの学習者対象が前提のクラスだった。しかしレベル分けテストがマークシートであったためか個人のレベルはバラバラであった。クラスの中には新出単語を説明する易しい単語でつまづいている人が、分からなくて意気喪失している姿が見られた。私もたまたま説明を受けてもいまいち分からない単語があったが、授業中はなんとなく推測しておいて授業後に調べるようにした。推測する楽しさも直接法の良さではあるが、あまりにも分からないとやる気を削がれてしまうと感じた。また、私が韓国語で言いたい表現を先生に聞くことは難しいという点もある。日本語もできる先生であれば、日本語で質問して伝えたい微妙なニュアンスも受け取ってくれるだろうが、韓国語しか話せない先生だと先生に質問すること自体が難しい。聞いて内容を理解することより、自分の考えをまとめて質問する方が難しいと感じた。

これまで韓国を訪問したことはあるが、一ヶ月半という長い期間は今回が初めてだった。旅行者というよりは生活者として韓国に滞在してさらに韓国の魅力を感じることができた。私たちは電車の中やバスの中でよくおじいさんやおばあさんに話しかけられることが多かった。日本に旅行したことがあるよ、日本で就職してたよなど日本語で話しかけてくれてとても嬉しい気持ちになると同時に、本当に韓国には反日感情などあるのかと感じることがあった。一ヶ月半生活して日本人だからといって何か差別されたりなど全くなかったためメディアで報道されている「反日」という実感はわかかなかった。むしろ韓国人の情の厚さにはいつも驚かされる。日本は「おもてなし」というキーワードでオリンピック招致に成功したが、私は韓国の方がおもてなしの気持ちが強いと思う。私自身見習わなければと思わされる場面が多くあった。この一ヶ月半の間にお世話になった韓国人のひとりの別れが一

番辛かった。また再会できる日までに成長した姿を見せられるように日々を過ごしたいと思った。

## 2. 日本語教育実習

私が担当した「日本語 B1-2」のクラスは、すでに N1 を取得している人・日本に留学経験がある人・他学部から転学した人・日本語専攻ではない人など実に様々なバックグラウンドを持つ人が集まるクラスであった。B1-2 といっても、各自興味のある分野や学習時間も異なるため B1-2 だからこの単語や文法は理解できると一概に言えないところが授業をしてみても難しいと感じた部分である。初回の授業では「授業をすることはどういうことか・雰囲気慣れる」ことを目標に授業を行った。授業の様子を担当教員の先生がビデオ撮影してくださったためそのビデオを見てから先生とフィードバックを行なった。授業中は進めることに精一杯だったため、冷静になってビデオを見ると、改善点が浮き彫りになった。授業の進行は学習者の協力も得ながらスムーズに進めることができたと思えば満足感を得ていた。しかし、ビデオを見ると反応があった学習者を見て安心して淡々と授業を進めていってしまっていた。授業で大切なことは教案どおりに進めるのではなく、学習者が理解しているか知識が定着しているかであるためこのところは学習者の反応を見て、適宜補足をするなど柔軟に対応する必要があると感じた。授業中に学習者の反応があまりよくなかったところがあったのだが、授業中の私は学習者が知らない単語を聞いている質問だったのかなと考えていた。しかしビデオを見ると自身の問かけが曖昧なために学習者に答えてもらえなかったということが判明した。「積極的な人」の説明のところで、授業中手をあげている人のイラストを示して、「発言しようとしている・答えようとしている」という答えが欲しかったが、なかなか声が上がらなかった。ビデオを見ると「この人は今手をあげています。ここは教室です。何をしていますか」という質問をしていた。最初に手をあげていますと話したのに、何をしていますかという問かけでは学習者が回答に困るのも無理ないと反省した。そしてフィードバックを受け、迎えた二回目の授業では前回に比べ余裕を持って授業をすることができたと思う。手前に座っている反応のある学習者のペースで進んでしまった反省点も活かしてクラス全体を見たり、指名したりとクラス全体を巻き込めるようにした。最後まで悩んだ、トピック内の大きなタスクもグループワークでのやり取りを見る限り、活発に行われていたと思われる。

釜山外国語大学が取り入れている CEFR の Can-do の考え方は自分がこれまで受けたことのない考え方だったので、授業を作るときにとっても悩んだ。実際に授業をして感じたことは語彙数と文法のカバーに工夫が必要であることと場面設定の重要性である。教科書もなく指導単語が決められていないため、最終的な大きな課題のためにどれだけ単語や文法を積み重ねることができるかを感じた。指導する先生によって単語と文法のカバーの仕方は様々であった。CEFR の穴とも言えるこの問題について今後考えていきたいと思う。場面設定では実際に社会参加するものとして言語を使おうと学習者に思わせるのが大切であると感じた。例えばただ単に自己紹介をしようでは、学習者が使える簡単な表現にとどまってしまう。留学生歓迎会での挨拶などと場面を制限することで、話す内容の取捨選択や敬語などの適切な表現を考えて、より具体的で高レベルな自己紹介ができると思う。また、実用性がある場面を考えるのと同時に、導入の仕方や効果的なロールプレイの方法など様々な工夫ができると感じた。今回の実習では悩みに悩んで教案を考え、実際に授業をして学習者の反応を見て意図した通りに伝わったことに安堵したり、反省したりと長い時間クラスに向き合った。より良い授業のために教案をつくることは、終わりのない作業のように感じられるが、自分が考えた教案で授業をする楽しさも経験することができた。

### 3. 複言語・複文化プログラムについて

結論から述べて、自分では複言語・複文化能力を育むことができたと思う。その理由を3点述べたいと思う。

まず一つ目は、自分の中の言語の一つとして韓国語が身についたという実感があるからである。日本では、授業内という限られた空間でしか韓国語を使うことがなかったため、一つ一つの発言に慎重になっていたように思われる。しかし、韓国での生活では言語を使わないと、意思疎通ができなかったり、不利益を被る場合が多々あったため、完璧でなくても言語を使う必要性があった。そのようなサバイバル的な要因もありながら、コミュニケーションを通して会話の楽しさや韓国の人の温かさを感じることができた。これまで、大学の授業や独学で韓国語を勉強してきた経験から、単に言語を学ぶだけでは、複言語・複文化能力は育まれないと考える。現地に行って言語を学んで、実際に使って現地の人とコミュニケーションを取ってこそ、複言語・複文化能力が育成されるだろう。その点でこのプログラムはとても意義のあるものだと考える。

二つ目は、韓国語を学び、そして日本語教育を行ったことで言語を学ぶ学習者の立場も理解することができた点である。韓国語研修では、日本語と韓国語の似ている点や異なる点を学ぶことができた。日本語教育実習で学習者の作文を添削したとき「～を乗る、～を好きだ」という韓国語話者ならではの間違いに遭遇した。私自身、韓国語を勉強するときこの助詞の使い方に違和感を感じたことがあるので、どうしてこの間違いが出るのか理解することができた。一方的に正しい文法を教えるのではなく、なぜこのような間違いが起きるのか理解していると、学習者の間違いにも冷静に対処することができると思う。日本語教師として相手の国の言語を知っているとつまづきやすいポイントが理解できるため、難しいと感じる学習者に寄り添った授業ができるのではないかと考える。また、直接法による授業では学習者が常に気を張って授業を聞いていなければいけなく負担が大きいと感じたので、できるだけ聞き取りやすいように大きな声で話すスピードも抑えるように心がけた。韓国語研修での自分の経験を、後半の教育実習に活かすことができたと思う。

三つ目は、日韓学生フォーラムで韓国の大学生と意見交換をして改めて日韓関係の問題の複雑さを感じた点である。韓国での生活の中で反日感情を全く感じなかったと述べたが、メディアではこれほど感じるものがあつた。韓国語研修のときに見たおそらく教育テレビ番組だと思われるのだが、小学校での出張授業のようなものが行われていた。その内容が日帝時代の安重根と伊藤博文に関するクイズで、韓国語の理解力がそこまで高くはないため全部を理解することができなかったが明らかに日本人からすると反日教育と思われるような内容であった。私はこれまで、歴史や領土問題はあるけれど学生の私たちは反日・反韓感情はないしこれから改善するだろうと思いついてばかりにとってもショックを感じてしまった。そこで日韓学生フォーラムで韓国の学生にこの話をして、歴史的な確執を持ち出すよりこれからはに向けて関係を構築することはできないのかと質問した。韓国の学生からは、自分も過去ばかり見るのではなく、これからはについてもっと時間を割くべきだと考えるという答えが返ってきた。もう一人の学生は、自分もそう思うが、おじいさんおばあさん世代では実際に経験したことだから主張を譲れない部分もあるだろうと話してくれた。1時間の議論の中で、韓国で見た番組を見て感じた疑問をぶつけたり、韓国人の率直な日本のイメージを聞くことができた。私がフォーラムで感じたのは、反日・反韓感情はメディアの影響が大きいということ、そのためこのように議論する場を持ち続けることが大切だということだ。

自分の立場を主張するだけでなく、相手の主張に耳をかたむける姿勢を持ち続けることが今後の関係改善に必要なことであると思う。

今回のプログラムでは、韓国語を学習し韓国の文化を体験し、韓国という国が自分のア

イデンティティの一部になったように感じた。また、日本語教育では今まで何気なく使っていた文法や言葉も客観的に見つめ直すことで日本人としての意識も再認識した。今、私の中には日本も韓国も互いに共存している。今後日韓人として自覚を持ち、両国のためにできることを模索していきたいと考える。

# 複言語・複文化主義の可能性

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

私は韓国人であり韓国語を駆使することができたため、今回の多文化交流実習の韓国語プログラムには参加せず、後半の日本語実習のみの参加となった。韓国語研修には参加しなかったが、他の実習生と同じ日に韓国に行くことになった。韓国に帰国するのは4年ぶりで、久しぶりに親族や高校時代の友人と再会するなどして時間を過ごした。親族や友人との交流を通して、韓国人としてのアイデンティティを再認識することができた。

日本で生活するときには韓国語を使う機会が多くないため、単語や表現の仕方など忘れてしまっているものが多いことに気が付いた。そのため韓国語研修ではないが、韓国語能力を向上させるために、毎日新聞やニュースを見て韓国語に触れ、学んだ。

8月末には釜山外国語大学で韓国語研修を終えソウルに来た実習生たちと一緒に観光をして時間を過ごした。韓国で日本人の友人と会って交流することが初めての経験で、日本語で話しながら、時には簡単な韓国語を交え韓国の文化や歴史について話あったりしたため非常に新鮮であった。実習生たちとはソウルの北村韓屋村に行つて村を回ったり、食事をしたりして時間を過ごした。このような交流も複言語・複文化的な活動のひとつだと感じたため、この先も交流を図っていきたいと思った。

## 2. 日本語教育実習

後半の日本語教育実習には通常通り参加した。多くの学習者の前で日本語を教えることが初めてだったため、緊張と失敗の連続だったが、今回の日本語教育実習は、「教育」のことだけでなく、自分の素質や弱みについて多くのことを考え、学ぶことができた機会となった。

私が担当したクラスは B2-1 レベルで、「からだと健康」のトピックで教案を作成し4コマの授業を担当した。私を指導してくださった松浦先生は韓国に長期間在留されていて、韓国語や韓国のことについて精通している方だった。そのため、常に韓国人の学習者の視点に立って、どのように教えればうまく伝わるかを発音や語彙、表現の仕方など様々な側面から事細かく指導してくださった。

第一週目は松浦先生のご指導のもと教案を作成しながら、他の先生方の授業の見学をした。しかし、第一週目はオリエンテーション期間であり、教案作成に追われていて第一週目で通常授業を見学することができたのは「ビジネス日本語テキスト読み」と「日本語A1」のクラスのみであった。授業見学を通して気づいたことは、すべての授業で共通していたことだが、授業を始める前にアイスブレイキングの時間を取って、日本語を使って自由に会話させ、学習者だけでなく、先生を交えてクラス全体でコミュニケーションを図るということであった。日本語で自由に話し、コミュニケーションを図ることも授業の一環であるはずだが、私はその重要性を認識しておらず、与えられたトピックに必要な語彙、文法、表現だけを教えることだけに重点をおいて教案を作成してしまった。第二週目の月曜日と水曜日に実習を行ったが、初日の月曜日のクラスでは学習者との交流が少なく、一方的に教えるという形になってしまい、学習者が本当に理解することができたのかをきちんと確認することができずに終わってしまった。水曜日の最後の授業でコメントシートを書いてもらったが、月曜日の授業に関しては、学習者も同じことを感じており、非常に申し訳ない気持ちになった。松浦先生、森山先生のフィードバックを受けて、水曜日の授業



では、できる限り学習者とコミュニケーションを図り、学習者が学びやすい雰囲気、環境をつくろうと努力した。授業の最初にペアで自由に話す時間や学習者が日本語を使う時間を設けた。また、緊張すると表情が少し暗くなり、声が小さくなるというご指摘を受けたため、意識して笑顔をつくり大きな声が出せるように工夫した。教材に関しては、月曜日の授業前に、少しボリューミーだがうまく調整すれば時間通りに進められると言われていたが、授業の進め方が一方的であったため、時間が余ってしまった。そのため、学習者のアウトプットの時間を増やすことで時間をうまく調整できるよう心掛けた。

最後の授業では、教案の順序を間違えるなどのミスがあって、準備した通りにうまく授業を進めることができなかったが、月曜日の実習のフィードバックや先生方のご指摘を意識して教えることができた。学習者のコメントシートにもペアで話し合う時間が多かったことや授業の進め方に関して肯定的な評価が多かった。しかし、単語や表現の説明が難しいなどの指摘があって、外国人に日本語を日本語で教えることの難しさを改めて感じた。

2週間の日本語教育実習を通して、一から教案を作成し、自分で授業を進めるという経験をし、外国語として日本語を教えることだけでなく、単に何かを教えることの難しさ、授業を進めていくためのプロセスやそれを準備するために必要となる熱意や態度など、多くのことを感じた。閉会式での名古屋外国語大学の坂本先生のお言葉が非常に印象的で、今回の日本語教育実習を通して私が学んだこと、気づいたことをうまくまとめてくれたお言葉だった。教育の「教」は「教」ではなく「共」であるべきで、教師が一方的に教えるものでなく、教師と学習者が共に学んでいくべきであるというお言葉だった。この先、日本語だけでなく、他の言語を教えるような機会が訪れたとき、今回の実習で学んだことを活かしていきたい。

### 3. 複言語・複文化プログラムについて

今回の多文化交流実習は韓国語研修と日本語教育実習が一緒になっていて、日韓学生フォーラムもあり、日本語と韓国語両方を使って日本文化、韓国文化に触れ、交流を図ることができたため、複言語・複文化主義に基づいたプログラムであると感じた。

良かった点としては、まず日本語教育実習という単に日本語を教えるためだけに行くのではなく前半の韓国語研修のプログラムを通して韓国語や韓国の文化に触れ、理解を深めることができるため、日韓の学生が対等な立場で交流することにつながったことが挙げられる。日本人として日本語を教えに行くことは、日本人としてのアイデンティティを強化してしまう恐れがあるが、韓国語を学び、韓国人と交流する機会を事前に設けることで、より大きな枠組みの東アジア人としてのインターナショナルなアイデンティティを形成することができたのではないかと考える。

良くなかった点、プログラムでの釜山外国語大学のペアや日韓学生フォーラムに参加していた人たちの多くが日本語創意融合学部の学生で日本語を話せる人が多いことから、交流のなかで日本人学生が韓国語を使うことが少ないということが挙げられる。また、日韓学生フォーラムにおいても、もともと日本語や日本文化が好きな学生、日韓の歴史に興味を持っている学生が多く参加しており、ディスカッションの時に反論が出たり、異なる考え方を持っている人の意見を聞いたりすることができなかった。日韓が抱える様々な問題を解決していくためにもより多様な意見や考え方を知ることが必要であると考え、日本語を専攻としている学生だけでなく、その他の専攻の人も参加してもらい意見交換をすることが望ましいのではないかと考える。

### 4. 残念だったこと

今回の実習で残念だったと思うことがひとつある。

私は釜山に親戚の家があったため、実習に行く前には親戚の家で生活する方が良いとばかり思っていた。しかし、日本語教育実習が始まる前に他の実習生とソウルと一緒に観光したり、ラインで連絡したりするなかで、同じ寮生活をすればもっと仲を深めることができるのではないかと思うようになった。日本語教育実習が始まってからは、お茶大生だけでなく他の大学生も同じ寮に住み、交流する機会も多かったと聞き、寮生活ができなかったことが少し残念だった。

# 複言語・複文化プログラムを終えて

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

私が本格的に韓国語を学び始めたのは今年の春からで、今回の韓国語短期研修に参加するにあたり、研修が始まる前は韓国で生活することが非常に不安だった。海外経験は初めてではなかったが、今回は渡航先の国や言語について事前に十分に学ぶ時間があったので不安よりも期待の方が大きかった。しかし今回は韓国の文化や言語の知識が不十分であると感じていたので不安を煽った。自分の言動が韓国の方に失礼にあたりしないだろうか、誤解されたりしないだろうかとマイナスなことばかり考えた。日本語を学ぶ韓国人学生がバディとして付いてくれたが、その方とうまくコミュニケーションがとれるかどうかも不安で仕方がなかった。

しかし韓国に着いてみてまず感じたのは不安ではなかった。韓国語がわからない自分でも韓国での生活を楽しめるようなプログラムが多数準備され、そんな私たちをサポートしてくれる体制が万全だったからだ。バディの方、研修の運営を担当してくれる方々は日本語がペラペラで、とても親切に接してくれた。そんな環境の中であつたので、安心して自分のペースで韓国語を学ぶことができた。自分が振り分けられたクラスではクラスで話される韓国語がすべて理解できるわけではなく、自分には難しいと感じるクラスであつたが、少しでも韓国語の実力を伸ばしたかったのでクラスを変更することはしなくなつた。その結果、韓国語の上達が実感できるレベルまでいけたのでとても満足している。研修の初めに受けたプレースメントテストと最後のテストを比較してみると、点数も上昇し、何より達成感を自分で感じる事ができて非常に充実した研修だつたと思う。

プログラムでは韓国語の勉強だけでなく様々な文化体験（韓服体験、韓国料理体験、韓国映画鑑賞、K-POP ダンス、韓国の歌の体験など）や釜山の地を思い切り満喫できる時間が用意されており、TV や教科書を通して見る韓国ではなく、実際の「韓国」を体験できたと思う。今年の前学期では韓国に関する授業を4つとつたが、それらの授業で学んだことがその通りだなと実感した部分もあれば、想像とは違つたと思つた部分も多々あつた。例えば、グローバル化と言語教育Iの授業で私は「日本と同様に、韓国の若者は年配の方に比べると考え方が柔軟である」と感じた。政治や歴史上ではうまくやってきたとは決して言えない日本と韓国であるから、日本に対するマイナスイメージは若い世代よりも年配の方が高いのではないかと考えたためである。そのため韓国の年配の方に失礼ながらも少しだけ恐怖感を抱いていたのだが、地下鉄に乗っていたり道を歩いていた時に「どこの国の人？」と気軽に聞かれ、日本人だと答えても前と変わらず普通に接してくれたことが私には驚きであつたし非常に嬉しかった。「日本人のことを嫌っているだろう」という思い込みは自分の中にある偏見や固定観念であるとはわかつてはいても、日本人である私に普通に接してくれることを経験して、マスメディアで報じられる韓国人と実際に韓国で生活している韓国人は違うのだと身を以て知ることができた。韓国を訪れる前に抱いていた不安が消えたこと、そして日本でももっと韓国について学びを深めたい、また韓国に行きたいと思うことができたことこそがこの研修が実りの多いものであつたことの証拠であると思う。

## 2. 日本語教育実習

日本語教育実習は韓国語短期研修よりももっと事前準備が足りなかつたと実感した。そ

れは一緒に実習に参加した日本人学生が日本語教育を専攻とする大学生であったからというのものもあるかもしれないが、自分の気持ちに真剣さが足りなかった気がしたからである。どこかで「どうにかなるだろう」と思っていた部分があり、実習が始まった日にそのことを反省したことを今でも覚えている。韓国語の研修が遊びの時間だったと思えるくらい日本語教育はハードなスケジュールで睡眠も十分にはとれなかった。しかし自分で授業を考え、実践し、フィードバックをもらうというとても貴重な体験ができたことは自分の将来を考える上で非常に良い刺激になった。

渡韓前、日本語教育の授業や事前実習の場で少しは日本語教師のイメージがつかめたような気だったが、実際にやってみると何もかもが手探りで、とてもイメージ通りではなかった。授業を組み立てる立場に立ってみて、これまでの自分が受けてきた授業をもっと真面目に聞かなくてはいけなかったと反省した。学習者に少しでもわかりやすい説明ができないか、パワーポイント・プリントは見やすいか、単語の語彙レベルはクラスのレベルに合っているかなど気にかけることが多すぎて、一つの授業を考えるのにいったいどれだけの時間を費やしたかわからないほどであった。上級者レベルのクラスだったのでCan-do ステイトメントに沿ってさえいればほとんど自由に組み立てられたが、テーマ設定にとっても時間がかかった。A-1 や A-2 は教えること（カタカナやひらがななど）が大体は決まっているので、どうやって説明したら学習者が理解しやすいかに重点を置いていたようだが、上級クラスになると授業の内容に重点を置いていたように見えた。学ぶことと実践することの違いは異文化理解という点にも当てはまるが、日本語を知っていることと日本語を教えることが違うということを実感する機会でもあった。インプット（大学での学びなど）に比べて、アウトプット（実践）がどれだけ大変かを改めて感じる事ができた。日本語教育も教育実習も全てが初めてで出来上がった授業も拙いものであったが、いろいろ工夫しながら授業をするというのはとても楽しく、充実感もあった。担当教員の諏訪先生も様々なサポートをしてくださったが、最初に会った時に「楽しみながらやりましょう」と声をかけてくれたことが大きかったように思う。付け焼き刃の知識では限界があることは目に見えているが、それでも全力で取り組みかつ自分が楽しいと思える、韓国の学習者から学ぶという姿勢で授業に臨めたこの2週間はとても貴重な体験であった。

### 3. 複言語・複文化プログラムについて

複文化の点においては実感を伴った異文化理解ができたのではないと思う。お茶大で行うTV会議授業とはまた違う「韓国」を知ることができた。日韓学生フォーラムでは実際にお話することができてとても勉強になったし自分の韓国への理解が足りないと感じ、新たな課題も見つけることができた。この点は非常に良かったと思うが、6週間を通して韓国語に触れる機会は少なかったように思えるので複言語の点では残念さが残る。これでは韓国語を全く知らなくても、助けてもらいながらただ過ごすことができるような気がした。私たち日本人学生の韓国語能力の問題であるが、韓国と日本の間の難しい問題について日韓学生フォーラムでディスカッションするときに韓国側が日本語で話してくれることが当たり前ようになっていた。だがよく考えればこれは平等ではないような気がしてならない。円滑なコミュニケーションを大切にするなら日本語でしたほうが効率がいいのかもしれないが、日本側の歩み寄りが少し足りないのではないかと感じた。来年からはプログラムの募集をする際に韓国語能力も問うたほうが良いのではないと思う。

しかしこのプログラム全体に私はとても満足である。実感を伴った学びというのは自分の中に強い印象を残し、これからの自分の学びへの刺激になる。韓国についての関心がより一層深まり、「もっと知りたい」「なぜそう考えるのか」と思うことが増えた。韓国語学習への意欲も高まり、韓国で働いてみたいと感じたほどである。自分のアイデンティティ

の変化とまで言えるかどうかはわからないが、二国間の距離がもっと縮まってもっとお互いを助け合えるような存在になってほしいと強く感じるようになった。お互いの国への偏見を捨て、より良い信頼関係を築き、政府同士が協働できるような将来が来ることを祈った。「そのために自分ができることは何か」という問いは私には難しいが、最低限できることはこのプログラムを通してできた韓国とのつながりを大切にすることだと思う。私一人でできることには限りがあり、日本人のつながりはこれからいくらでも作れる。韓国と繋がれたことがこのプログラムの一番の収穫である。反対にこのプログラムの限界は、せっかく韓国の大学にいたのに多くの学生と話すことができなかった点であると思う。日程上仕方ないことだが夏休み中はバディの方としか話さない。新学期になれば日本語教育実習に追われるので、本当に日韓学生フォーラムとその後の食事会くらいしか多くの方と話す機会がなくて少し残念だった。対話はとても大切だと実感したので、新学期が始まってからこのような機会がもう少しあれば良かったように思う。

#### 4. グローバル化と言語教育 I について

日韓学生フォーラムで前期の授業を取っていた学生さんと再会したこと、担当教員が諏訪先生だったということもあり、少し前期の授業を振り返る機会があった。私はTV会議の授業の限界として日本語での発表だったことを挙げ、それに対する改善策として英語を使ってはどうかと提案した。しかしそれは韓国側に全く配慮していない意見だったことに彼らと話をしていた気づいた。日本語を外国語として学んでいる韓国の方に対して、自分の都合の良い言語を押し付けるのはとても失礼であった。反省している。この間違いを踏まえて、後期のTV会議の授業ではこれの代替案が見つかることを含めて、もっと前向きなディスカッションが展開されることを期待している。

# 韓国での実習を終えて

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

まず、韓国語について述べる。私は大学で第二言語として韓国語を選び、1年半学んできた。そのため文法はおおよそ学び終えており、今回の実習は学んだ知識を実践する機会だと考えていた。今、それはとても呑気な考えだったと思う。韓国に来て私は、文法を知っていることと実際に使いこなすことは大きく異なるということをいたるところで痛感することになった。パートナーがいたときはほぼ韓国語を使わず、スムーズに買い物や生活をしてきた。しかし、日本語ができる人がいなくなった途端、全てのことでうまく立ち行かなくなった。電車の中で話しかけられてもわからない、お店の人の問いかけに答えられない。自分の思いは日本語の中で形作られており、とっさに韓国語や英語に変換することにつまずいてしまうことが何度もあった。言葉が通じないという経験は初めてで、伝えることのできないもどかしさ、苦しさを思い知った。しかし、まっすぐ伝えることができないなかで気づいたことがある。カフェで注文の仕方を教えてくれた店員さんや郵便局で通訳してくれたお客さんにとって、手間をかけさせた私は迷惑だったかもしれない。しかし、自分が迷惑をかけると閉じこもっては何もできなかった。ここで勇気を出して伝えようとしたことで相手が私の意を汲み取ろうと歩み寄ってくれたことを強く感じた。韓国の方はとても優しく対応してくれ、そうした人の心の温かさにも触れることができた。日本にはわからない、「伝える」ことの本当の重みを知ったのが今回韓国語を使うなかで得た、最も大きな「学び」だったと思う。韓国語学習が中途半端な状態で行ったからこそこの気づきであり、韓国語学習に対するモチベーションを大きくあげるきっかけになった。今回は日本語で話したパートナーたちと、お店の店員さんや電車であ会った人々と、次回こそは韓国語で積極的に話しかけるということが今後の目標である。

次は文化について述べていく。文化は私が一番興味のある分野であり、文化の違いを知ることが留学前の大きな目的でもあった。飛行機から韓国の釜山の先が見えてきた時点で既に日本にはない高さの建物が整然と並ぶ姿を見て、違う文化があることに期待を抱いた。ところが実際降り立つとほぼ日本と変わらない気候や自然、そして文化がある。私は韓国も日本も東アジアの同じような自然の中で似た文化が育まれてきたことを知った。しかし、生活を続けると小さな違いが次々と見つかって居心地の悪さを感じるようになった。辛い食事はもちろんだが、どこでもステンレスの食器を使うこと、直接箸を大皿につけること、シャワーしかないこと、ゴミを道端に捨てることなど、文化が似ているだけにこうした小さな違いが余計気になる。文化の違いを知ることはたやすくても、実際受け入れるのには抵抗を感じてしまい、ストレスに思うこともあった。今まで大学で学問として学んできた異文化理解だが、改めて異文化を目の当たりにしてみると、それがいかに困難なことかに気づいた。1ヶ月以上、韓国に滞在する中で徐々に私も韓国の文化に慣れ、最初の頃の高揚感やストレスはなくなり、同時に日本の文化に対する様々な見方が生まれた。外国人という立場に置かれ、日本と韓国のどちらに属することのない存在になり、お互いの文化に対して客観的な視点を持つことができるようになったと思う。日韓関係についても自分なりの認識を得られ、課題が見えてきた。自分がこれまで学んできた知識に加え、今回経験してきたことを総合して、韓国は私のなかで最も近い国になった。これからは韓国をさらに知っていくことだけではなく、得たことを活かして自らが日韓の架け橋となるために

きることを学んでいこうと思う。

## 2. 日本語教育実習

私はこの実習の中で日本語教育実習を最も不安に感じていた。日本語教育は4ヶ月授業で学んだが、教壇実習の経験もなく全く初めての経験になる。普段学生である私が教師として教えることが想像できなかった。前半の韓国語実習が終わってすぐ担当教師の方と面談をし、教案に取りかかったが、まず学生が日本語・日本文化の何を知りたいのかということから考えなければならなかった。特に私は最上級のB2-2クラスを担当していたため文法事項を教えるより、将来日本に留学したり、就職したりと長期滞在する人達に対して必要な知識を探し出す必要がある。そのためむしろ、日本語というより日本文化を考え直すことになった。ただ、外国人によく知られている日本ではなく、また数多くある韓国と共通した文化ではない部分で日本を教えるのは日本人の私にも難しかった。何度もテーマを練り直し、結局曖昧な日本語、日本の自然・文化と手紙というテーマに落ち着いたのだが、納得いかない部分もあつた状態でぎりぎり授業に間に合わせた。教壇では人前に立つことに大いに緊張したが、2回とも筋書き通りには終えることができた。しかし後悔している点が多い。特に学生からの質問や問いかけをあまり引き出せなかったことやせっかくなら聞いてくれた質問にうまく答えられなかったことだ。できることならもっと時間をとって活発な話のやりとりをしたかった。日本語教育実習は日本語教師になる人にはとても有効な時間だっただろう。しかし、もっと関わりを持ちたかった私には少し物足りない感じで終わってしまったのが残念だ。

だが、日本語を学んでいる学生の姿を見たことは大きな刺激になった。最上級のクラスの人たちの日本語・日本を知りたいという強い思い、熱心に勉強する姿勢に私は感動した。私は韓国語を選び、学んでいるが、自分の専門分野ではないと手を抜いてしまうこともあった。たとえ専門ではなくても、言語はすべての基本になる。そして彼らと交流を持つのに大切なツールだ。帰国後はもっと韓国語、そして英語も真剣に取り組もうという決意を固め、修了証を受け取った。初めての体験だったが、今では本当に挑戦してよかったと思っている。

## 3. 複言語・複文化プログラムについて

日韓学生フォーラムについては充実した時間だったと思っている。短い時間だったが、日韓の問題について直接韓国の方と話し合えたことで様々な視点を得ることができた。今後授業の中でお互いに学びを深めていきたいと思う。

全体に関して、韓国語、そして日本語の両方に触れ、さらに日本に興味を持つ韓国の学生と多くの関わりを持たたという経験はこのプログラムに参加したからこそ得られたものだった。特に韓国が自分にとって一つの外国ではなくなり強いつながりのある場所になったことが嬉しかった。1ヶ月以上という長い滞在の中で韓国文化への認識の変化を感じ、同じ学生同士の交流を通して日韓の共生を前向きに考えられるようになった。ただし複言語・複文化プログラムという観点でいうと、言語の面で少し物足りない点もあつた。前半の実習は韓国語の授業や文化体験は充実していたが、日常生活においてはほぼパートナーに頼る形であり、そのためあまり韓国語を使用せずに過ごすことができた。もっと積極的に韓国語を話すようにすればよかったと後悔しているが、レベルも色々なのでパートナーは全員と話すために日本語を使う必要があつたのだと思う。また、後半の日本語教育実習はさらに日本語のみになってしまったので、覚えた韓国語を使う機会はなかった。また、日韓・東アジアの共生について考える機会もフォーラム以外にはあまりなかったと言える。交流においては政治の話はほとんどなく、学生の方も元々日本や日本語が好きで日本語学

科をとっていることもあり、そうした方向にはならなかった。総合してみるとこのプログラムは日韓の文化への理解や韓国の学生との交流を深める素晴らしい体験を提供してくれたが、言語面では韓国の学生に頼ることがほとんどで、日韓の共生への具体的なビジョンまで思い描くのは難しかった。私たちが日本語を学生に教えたのと同じように韓国の学生から韓国語を教わる機会があればより双方の言語における交流ができたのではなかっただろうか。また日韓・東アジアの共生についてももう少し長い時間をかけて取り組みたかった。しかし、韓国に滞在し、このプログラムをやり遂げたことで、自分の知識の足りない部分のはっきりとし今後の学習に繋げていくきっかけを手にした。2年生の今だからこそ、このプログラムに参加した価値があったと思う。

#### 4. その他

韓国に来て、一つ気になった点がある。それは歴史的建造物が少ないことだ。私は慶州に行き仏国寺を観光し、ソウルで景福宮や北村韓屋通りなどに行ったが、当時の姿を保っておらず再建したものもあった。(もちろん韓屋をモデルにした新しい建物は多くあり、とても美しかった。)また、伝統的なお祭りなどはほとんど聞かない。お土産屋で伝統工芸や韓服をモチーフにしたものもあったが、日本に比べれば少ないと思った。一方で韓国料理店の多さには驚かされた。普段から韓国料理を好んで食べ、朝食にもキムチなど辛いものが多かった。それは日本が韓国を占領したことが原因だったのではないだろうか。韓国文化が抑圧されたことで歴史的建造物は取り壊され、お祭りなどの習慣がなくなったのではと私は考えている。一方、人々の間で継承される食の文化は今も色濃く残り、韓国料理は韓国人にとってのアイデンティティになったのかもしれない。このことは私の推測に過ぎないが、そうしたところに韓国が辿って来た過去を感じた。

今の韓国は新たに作り出した現代文化が広まっている。若者達はメイクをし、流行のファッションでデパートを歩く。日本と同じようだが、日本よりもさらに未来志向が強い感じがする。しかし過去を捨てたわけではなく、人々は常に日本に訴えかけている。過去を忘れるなど。この実習ではあまり日韓関係のもつれや戦争の記憶を感じさせるような経験はなく、日本人の私に皆とても優しく接してくれた。交流を深めていくのに過去の出来事を持ち出すのはよくない、新たに関係を作り出していけばいいとも思った。だが、戦争を知らない若者も自分の祖父母を見て傷ついた経験を抱えているはずだ。これから日韓が一歩進むにはやはり過去を見つめ直す必要がある。その上でどこかに区切りをつけなければいけないとも思う。今回韓国でこの日韓の停滞している関係を変えたいと思っている人たちにたくさん出会った。だからこそきちんと両者が納得いく合意、区切りを形にし、交流が活発になっていくためにさらなる努力が必要だ。1年半、私は授業や自分なりに韓国について学習し、そして今回実際に韓国を見てきた。学んできたことをそろそろ実行に移していきたい。自分の専門にするかはわからないが、たとえ専門にしなくても日韓関係を憂う一人としてできることをしようと思う。



# 研修を通して感じた日韓の関係

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

前半のプログラムを始める前、私は、韓国語の能力が乏しかった。3週間の韓国語学習の授業では、基礎から学ぶことになった。授業の具体的な内容としては、初めにハングルの読み方ときれいな発音の仕方を学び、その後、様々な日常での場面の会話を学びつつ、その場面に出て来る文法を徐々に学んでいくというものであった。場面は、自己紹介や家族紹介、自分の家の紹介など、簡単な単語も同時に学べるようなものであった。発言する機会が多く、積極的に参加する形の授業だった。アクティビティが多かったため、実際に体で言葉を覚えていくことができたのがとても良かった。聞くだけの授業では、理解が定着しないままであったと考える。授業中の先生方は、ほぼ韓国語だけで授業や意思疎通を行っていた。韓国語がまったくわからない私たちが先生の言っていることがわかったのは、先生が大きいBody Languageを使用していたことが大きな理由だった。Body Languageは万国共通であることを実感したし、後半のプログラムである日本語教育実習の際に自分が気をつけるべきところだと考えさせられた。

このような3週間の授業を通して、ハングルを読むスピードが格段に上がったり、簡単な単語の意味がわかるようになったりした。最初は、人々が話す言葉や、公衆で目にする放送などの言葉が雑音にしか思えなかったが、3週を終えると、所々ではあるが、わかる単語を聞き取ったりすることができるようになった。私の場合、3週間で急激に韓国語への理解が変わったので、歩いている世界がまったく違うように思えた。同じ歩いた道でも、3週間プログラムの前と後では、まったく違う道を歩いているようだった。道端にある看板の文字や人が話している言葉が少しでもわかることでこんなにも感覚が違うのかと実感した。言語の重要性を実際に自分を通して学びなおせた。

また、この3週間において、釜山外国語大学の生徒のバディと行動を共にしたが、韓国の文化や生活も同時にバディ達から学んだ。器を持って食べないというご飯の食べ方の違いや、日本人と韓国人の電車内での行動の違いなどをバディ達に教えてもらった。バディ達は日本語が得意で、一緒に行動しているときは日本語で会話をしていたが、その流暢さにも圧倒され、韓国語を自分も負けないように勉強しようという刺激にもなった。また、バディが近代歴史資料館に連れて行ってくれた際に、私は大きな経験をした。そのスタッフである女性から日本語で、『今の日本人は自分たちが朝鮮で起こした残虐なことを何も知らないし、わかろうともしていない。』というようなことを言われたのである。確かに、その歴史資料館にあった資料ではとても残虐なことが書かれていたし、それは世界史の教科書にも載っていないことであった。知っているつもりではあったのに、知らないことも多く、その女性に私は何も言えなかった。ただ、日本人全員がそうではないということを知ることができたが、その時は圧倒されてしまい、何もできなかった。しかし、今考えてもこの時に自分が何をすべきだったのかははっきりと答えが出ない。実際にこういう場面に遭遇したのも、今後自分がこのような韓国と日本の溝のようなものに対してなにができるかを改めて考えさせてくれるような良い経験であった。これからの課題にしたいと考える。

次に韓国での生活だが、これは特に日本と大差ないものであった。食生活に困るかと考えていたが、白米が同じように食べられるため、全体的に食べ物が辛いことを除けば、食生活にも不満はなかった。ただ、大差がないと、些細なマナーもあまり変わらないのではないかと考えてしまいがちであった。実際は、日本人とかなり異なるマナーが多く、先ほ

ど述べたバディ達に教えてもらわなければ気づかなかった。

この3週間のプログラムにより、韓国の生活や文化に実際に触れることができた。同じアジアで隣国の国であったとしても、文化や考えが大きく変わってくるにより興味を持った。

## 2. 日本語教育実習

後半の日本語教育実習のプログラムでは、50分×2コマの授業を2日間行なった。最初の週は釜山外大の様々な日本語の先生の授業を見学した。実際に授業を聞くときに自分が教える立場であるということを踏まえながら聞くのは初めての経験であり、様々なことを学んだ。具体的に述べると、私はA-1からB-2-2の全てのレベルの授業を見学したが、レベルによって先生方は話す速度や使う単語、授業中に用いる韓国語を微妙に変えていた。自分のレベルであるB1-1の生徒の大体のレベルや授業中の言葉の使い方などをそこで学ぶことができた。

このように、先生の授業を見つつ、次の週の自分の授業に備えて教案や授業で使うPPTを準備したのだが、教案作成が一番苦労した。まず、Can Doという形式の授業が日本ではあまり見られなく、自分もそのような形の授業を受けたことがなかったため、事前指導の教科書でしかCan Doについて知ることができなかった。そのため、実際に自分がどのような授業を行うかなどが明確に想像がしにくく、教案の書き出しに苦労をした。このことから、実際に事前授業でも、よりしっかりとした教案を作成し、模擬授業をすべきだと反省をした。また、指導教員によって教案作成の仕方が大きく違ったため自分の中で混乱を起こしてしまった。

次に授業内容についてだが、私は主にアクティビティを多く取り入れるように授業をしようと考えた。なぜなら、インプットも大事だが、実際にアウトプットが多い方が生徒が積極的に参加できる授業になると考えたからだ。そのアクティビティで何をするかというのを考える段階で、自分の経験不足を痛感した。私の授業のトピックは『住まいと住環境』であったのだが、アウトプットのアクティビティをする際に、生徒が一番身近に起こりそうな場面を思い浮かべることが難しく、アクティビティに偏りが出てしまった。一番最初に提出した教案では、あまり起こらなさそうな場面で、なおかつ、やりとりと表現のアクティビティが似通ってしまっていた。指導教員から、このアクティビティをして生徒達は何ができるようになるのかという指摘を受け、Can Doに自分の教案が沿いきれていないことに気づかされた。自分がCan Doに沿っていると思っていなくても長年受けてきた教育に左右されており、教育の影響の強さを感じた。そこで、より教壇へ立つことの緊張感が高まった。これは私にとってとても良い刺激となり、自分の授業の実習の始まる直前の時間まで手を抜かずに、流れを確認したり、プリントの確認をしたりした。それでも、教壇に立つと予想外の問題に遭遇し、どれだけ冷静に対処できるかが鍵となった。ただ、入念に準備をしていたおかげで焦らずに問題を対処できたと考える。例えば、時間が余ったときに使うプリントやアクティビティを用意した。これは、実際に時間が15分ほど余ってしまったときに使えたので良い対策だったと言える。入念な準備の重要性を再認識した。

教壇実習は人生で初めてのことで力不足な面も多々あったが、実際の教育現場を知ることができ、とても貴重な経験になった。

## 3. 複言語・複文化プログラムについて

このプログラムの良かった点は、言語を学ぶ立場と教える立場、両方を短期間に経験できることだと考える。実際に、自分が前半の韓国の言葉と文化を学ぶプログラムがあったからこそ、後半で教えることができた日本文化もあった。両方の立場を自分の中に立てる

ことで今まで見ていた言語教育を違った視点で見ることができるようになったのである。また、日本と韓国、お互いがお互いをどう見ているか、見られているかについてより知ることができた点が良かったと考える。これは、実際に政治問題なども日韓学生フォーラムを通じて話せたことで、単なる語学留学だけでは得られないものも得ることができた。

次に、良くなかった点としては、実際に接触した韓国の大学生は全員日本が好きであるということである。日韓学生フォーラムで韓国の学生と話した時に、自分たちは日本が好きで、反日感情がないが、日本が嫌いでよく悪口を言う学生もいると言っていた。確かに、大きな反日感情を持っていればそもそも日本人の研修生である私たちとは交流すらしてくれないだろう。逆も然りである。もし、嫌韓感情が強ければこのプログラム自体に申し込まないであろう。しかし、実際に日韓・東アジアの共生のためには反日嫌韓の感情を持つ人たちとも話すべきであると考え。今回のプログラムでは、そのような機会がなかったが、偶然あった「1. 韓国のことばと文化を学んで」で述べたような日本人に対して良い感情を持たない女性との会話によって、私の中でこのプログラムが互いの文化や政治に触れて理解が深まったプログラムでは終わらずに、より考えることが増えたものになった。共生のためには反日・嫌韓の人たちとも話すべきである。これを実現しようと考えたと難しいものであるが、日韓の溝が生まれた原因が起こった世代から変わった世代から率先して交流をするべきであると考え。また、それにはどちらかの言語に合わせて話すのではなく、お互いがお互いの言語を同じように理解しているとより良い話生まれるのではないかと考える。

# 韓国から見た「韓国」～東アジア共生のために～

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

8月7日から8月26日に開催された韓国語短期研修では、韓国語の授業を受けたり、釜山の主要な観光地を巡ったり、釜山外大の学生がパートナーとなって交流してくれたり、とても充実した楽しい時間を過ごすことができた。この研修の中で様々な体験をした私は韓国のことばを学び、韓国への理解を深めることができた。

私はこのプログラムに参加する前までは、韓国についての知識はなく、韓国の代表的な料理も、人気アイドルも、有名なコスメも全く知らなかった。私が知っていたのは学校の教科書やメディアの報道による情報のみで作り上げられた「韓国」であり、どちらかといえば韓国に対してネガティブなイメージさえ抱いていた。しかし、なんとなく参加してみたこのプログラムを通して韓国の様々な良さに気づくことができ、韓国のことが本当に好きになり、また韓国に足を運びたいと思うようになった。

プログラム中に8月15日を迎えた。8月15日は私たち日本人にとって終戦記念日である。敗戦国である日本では全国戦没者追悼式が厳かな雰囲気で行われる。しかし、その日の韓国では街中のいたるところに韓国の国旗が揚げられており、8月15日の捉え方は日本と韓国で全く異なることに気がついた。8月15日は日本が降伏した日であり、韓国にとって36年間に及ぶ日本の支配からの解放の日である。「戦争終結」というたった一つの出来事、その一日を切り取ってみても、国や立場が違えば捉え方は全く異なるということをもって実感した日となった。

他言語を習得するにあたり、自己の変化を感じられることがあるという。しかしながら、私は今回のプログラムを通して自己の変化を感じるほど韓国語を深く習得することは残念ながらできなかった。このプログラムを通して関わった韓国の学生は日本語がとても流暢であったため、今回のプログラム中での学生との交流はほとんど日本語を使ってしまった。しかしこのプログラム中私の頭の中には常に「複言語・複文化主義」という考え方があった。日本語だけの交流では全く、複言語・複文化主義を体現していないのではないかと感じた私はとても情けない気持ちになっていた。過去の私であればこの出来事に対して何も感じなかったであろう。帰国して見て、プログラム中に情けないという感情を抱いたということは少しでも複言語・複文化主義を理解し、体現しようと試みているという自分の成長を感じることができた。

このプログラムを作り上げてくれた韓国のスタッフの方々が、このプログラムを少しでも良くしようとどんな時でも動いていたことに感動し、3週間という短い期間の中でたくさんの人と出会い、たくさん思い出ができた。正直、たった3週間ではパートナーとそこまで仲良くなれないだろうと思っていた。しかし、パートナーと離れたくない、日本に帰りたいと空港で互いに涙を流すほどに絆を深めることができた。問題の多い日韓関係ではあるが個人の交流では日本人、韓国人は関係がないことを再確認し、本当の「韓国」を少しでも知ることができたことは良かったと思うと同時に、このような交流の機会が多くなれば双方の理解が少し進むのではないかと感じた。

## 2. 日本語教育実習

私は今まで人に何かを教えるという経験を全くしてこなかった。そのためこの日本語教育実習は苦労も多く、楽しいことばかりではなかった。しかしながら苦労の中にも楽しさ

を見つけ、また多くのことを学ぶことができた。

まず、釜山外大の先生の授業を見学した。そこで感じたことは、先生一人一人によってアプローチが全く異なるということだ。can-do というのはもともと授業の目標のみが与えられていて、アプローチは教員によって異なるというものではあるが、見学を通して改めてアプローチの違いを感じた。使用する教材も授業の進め方も成績の評価方法も話すスピードも語彙のレベルも全てが一人一人の先生によって違っていた。同じレベルかつ同じトピックでもそれぞれの先生にそれぞれのやり方があった。それに伴い、当たり前のことではあるが、教室の雰囲気や学生のレベルも様々であった。したがってこの can-do に沿って行う教育では先生の独創性が大いに必要であり、先生自身の能力が高く求められると感じた。また、日本語教育、言語教育においては学習者のレベルに合わせて先生は話すスピードや語彙のレベルを考えるべきであるという常識があるが、スピード調整や語彙コントロールを厳密に行っている先生は誰一人としていなかった。やはり大学の講義で学んだ常識は実際の教育現場では常識ではないということがある。実際の授業を見学する大切さに改めて気付かされた。

「日本語を教えてあげようという考えを持って授業をすると必ず失敗するし、誰も楽しくない。授業をすることによって自分も学び、楽しもうとする姿勢が大切だ。」これは、私の担当教員が初めての面談のときに私に言った言葉である。私はこの言葉を実習中に何度も自分に言い聞かせながら授業に臨んだ。実際に授業を行ってみると、この言葉の大切さが本当によくわかった。教えてあげようという気持ちで授業を進めると、学生とのコミュニケーションは少なくなり、先生の一方的な授業となってしまう。一緒に学ぼうという姿勢を先生が見せて初めて、学生もこの先生から学ぼうと思えるのである。

また、私は今回の実習で授業に使う教材を一から作成した。授業の理解の段階においては聞き取りを行ったが、インターネットに掲載されてある記事の文章では難しすぎるため、自分で内容を選択肢、語彙のレベルや文章の長さを調整して聞き取りの文章を作成した。また、やりとりの際に使うイラストや表現の際に行うスピーチの例も自分で作成した。もちろん、授業で学生に配るプリントやパワーポイントも全て自作であった。授業の内容を考えたり、教案を作成したりすることも大変であったが、今回はこの教材作りに多くの時間と労力がかかった。しかし、自作の教材を使って授業を行い、その授業が成功した時の達成感にははかりしれないものであった。また、私の作った教材を担当教員の先生が大変気に入ってくださり、別のクラスで使用していただいたことは私の大きな自信となった。can-do においては、使用する教材が全く決まっていないために、自分で教材を作成することも可能である。私は今回の実習を通して教材を一から作成する喜びも感じることもできた。

今回の実習を通して日本語教師としての今後の課題を発見することもできた。今後の課題は授業中の学生の発言、発表に対するフィードバックである。「授業中に学生に発言をさせたなら、その発言に対して必ずコメントをするべきである。学生の発言に触れてあげないと、発言をした学生は二度と発言をしたいと思わなくなってしまう。」この言葉を私は日本語教育実習が2回目の先輩に言われた。この言葉を聞いたときは学生の発言に対して先生がコメントするのは当たり前のことでそこまで注意すべき点ではないと感じていた。しかし、実際の授業で学生の発言や発表に対してコメントすることは非常に難しかった。1回目の授業では、ペアごとにやりとりの発表をしてもらった。しかし、やりとりの中で間違った表現を発見してもその場で間違いを指摘して解説することができなかった。また、発表に対してよかった点を見つけ、褒めてあげることもできなかった。どのように発言、発表をしていくかわからないため、その場で対応しなくてはならない。2回目の授業ではスピーチの発表に対しできる限りフィードバックを心がけたが、担当教員にはフィードバ

ックの不足を指摘されてしまった。学生の発言、発表に対するフィードバックは教師になる上で必要不可欠なことであるが、何よりも難しいのではないかと感じた。

実習中には担当教員や先輩、大学の教授に厳しい言葉を言われ、心が折れそうになったり、授業の準備が思うように進まず睡眠時間を削って準備をしたりと大変なことが多くあったが、授業後はなんとも言い難い達成感で満ち溢れていた。日本語が大好きで、日本語を学ぶ意欲がある釜山外大の学生に授業をすることができたことは、私にとって大変有意義な体験になったことは間違いない。大学入学前には日本語教師というものに興味がなかったが、この実習を通して私の人生の選択肢の一つとなったと言えるだろう。

### 3. 複言語・複文化プログラムについて

今回6週間というプログラムの中で、韓国のことばと文化を学び、日本のことばと文化を教えるという複言語・複文化主義を体現したような体験をすることができた。2つの相互的なプログラムに参加したのは本学の学生のみであり、他の大学の学生はどちらか一方のプログラムへの参加であった。またプログラムを主催している釜山外大も2つのプログラムを別のものとして捉えており、プログラムに関わっている責任者、学生は異なっていた。つまり、2つのプログラムを相互的に捉えているのは本学だけである。私はそこに本プログラムの限界を感じた。2つのプログラムを融合してはいるものの、1週間の間が空くことや、プログラムの関係者が異なることから2つの別々のプログラムに参加しているような感覚を覚え、相互的なプログラムであると感じることができなかった。私は、韓国と日本の双方の大学が6週間を一つのプログラムとして捉え共通の認識、目標の下で実施すべきであると考えている。また、本プログラムに参加している韓国側の学生は釜山外大の日本語創意融合学部に所属している、少なからず日本に興味を持っている立場の学生である。もちろんそのような学生は日本の学生との交流に積極的であり、日本に対してネガティブなイメージを持っていない。日本が好きな韓国の学生と韓国が好きな日本の学生だけで交流を深めるだけでは問題の根本的解決にはならないと考える。本当に必要であるのは日本に対して好意的な印象を持っていない学生との交流ではないか。

日本から知ることのできる韓国はテレビや新聞などのメディアを通して報道される「韓国」のみである。日本語におこされる際にバイアスがかけられていることは間違いないが、そうして知る「韓国」には慰安婦問題や強制徴用問題が絡んだネガティブなイメージである。ここ数年における日韓関係の冷え込みは著しく、日本から見る「韓国」ではなく韓国から「韓国」を見るということも本プログラムへの参加を決めた理由の一つである。「韓国」を見るために私はプログラムの休みを使いソウルを訪れたが、周りには日本人が多く東京と変わらない雰囲気であると感じた。また交流を行った韓国の方との間にわだかまりはなく、文化レベルでの交流は進んでいるのではないかと考える。しかしながら国交レベルでの相互理解には程遠く、問題が山積みである。本レポート作成中に平昌オリンピック公式ホームページ上に日本が消されている世界地図が掲載されているという問題が発生した。平和の祭典でありながらこのような問題が生じてしまったことは非常に悲しい。私は隣国である韓国との関係性の改善を望んでいるが、それにはまだ時間が必要であると感じる。

日韓関係の向上及び東アジアの共生のためには国政の協力は必要不可欠であるが、私たちのような若者や学生ができること、むしろ我々の世代にしかできないこともあると考える。まずは戦時中に日本が東アジア諸国に行った過ちをしっかりと理解することである。その際は日本の文献のみならず他国からの視点のものを取り入れていくことが必要である。戦争を経験していない我々の世代だからこそ、歴史的事実を冷静に見つめ、純粋な気持ちを持って日韓関係の向上に向けて交流を深めていけるのではないかと考える。

我々若い世代が今回のような双方の文化理解の機会を多くもつことこそが国際関係改善

の一助となるものと私は確信をしている。

#### 4. 結び

本プログラムに参加するにあたりご指導いただいた森山先生、佐々木先生にこの場をお借りいたしまして感謝申し上げたいと思います。またご支援をいただいた日本学生支援機構、最後に企画運営を行っていただいた釜山外国語大学校、お茶の水女子大学に感謝申し上げます。

# 釜山外国語大学での研修について

## 1. 韓国のことばと文化を学んで

前半のプログラムでは、3週間に渡って午前中は韓国語の授業、午後は釜山市内観光、というスケジュールで活動しました。日本人学生と韓国人パートナーで団体移動し、全員でバスに乗ったりパートナーが率いるグループ毎に遊びに行ったりしたので、自分が観光ガイドブックでは調べなかった場所や、多少遠いと思った場所にも行くことができてとても充実していました。韓国人1人に対し、日本人3～5人で様々な観光名所を回って買い物をしたり食事をしたり、親睦を深められる良い機会となりました。

韓国の文化に関しては、日本と時間感覚やコミュニケーションスタイル、街の雰囲気も似ており、生活そのものは概して日本とあまり変わらないように思いました。ただ、韓国人は自国の文化に大きな誇りを持っているのではないかと感じることも多くありました。私自身が感じたものを3点挙げますと、まずは街中に流れる音楽です。街や店で流れる音楽は、ほとんどが新しくリリースされた K-pop であつたと思います。私はふと、日本では街中でこんなに多く J-pop が流れているだろうか、と思いました。日本では、例えば多くのアパレルショップでは洋楽が流れていて日本の曲が流れることは少ないですが、韓国では洋楽はほとんど耳にはせず、K-pop が目立ちました。日本と韓国、双方の流行りの音楽のテイストの違いもあると思いますが、韓国人は韓国の曲が大好きなのだ、という印象を受けました。次に、韓国料理店の多さです。韓国では、日本ではあまり馴染みのない韓国料理もたくさん頂きました。街中や、デパート、大学や寮の食堂を見ても、ほとんどが韓国料理またはそれに近いものであり、洋食はあまり見かけませんでした。日本では日本料理のレストランも多いですが、それと同時に洋食店も多いと感じます。韓国人は韓国料理を大切にされているのではないかと感じる瞬間でした。そして、キャラクターです。韓国では韓国発祥の通話アプリ「カカオトーク」が主流であり、雑貨店やコンビニを見ると必ずそのキャラクターをモチーフにしたグッズが販売されていました。一方、日本のキャラクターも人気ではあるものの、ディズニーなどの欧米系のキャラクターグッズはあまり見かけなかったような気がします。私個人の感想によるものですが、以上の点から、私は韓国人は自国のものを大事にされる傾向・習慣があるように感じました。

韓国語に関しては、授業は全て韓国語で行われましたが、その他の活動は全て日本語で説明を頂いていたので、思いの外韓国語を使用する機会はありませんでした。韓国人のパートナーも私達には全て日本語で話しました。私の周りにも、その点を物足りなく感じていた学生がいました。私自身も、1人で買い物をする機会を設けて、できるだけ現地の韓国人と韓国語で話すようにしていました。私が他のお茶大生がソウルに行っている間、釜山に1人残ろう、と思ったのも、それが理由でした。私は韓国自体には行ったことはありませんでしたが、釜山に行く前から「もしかしたら韓国では韓国語を話さなくても生活できてしまうのではないかと感じていました。なぜなら、韓国には日本語を話せる人がたくさんいる印象が強く、さらに外国語大学で研修が行われたからです。しかし、私は「日本語だけで済んでしまう」ということにかえて不安を感じていました。それは、日本語でずっと通していれば相手国へのリスペクトにならないかと思ったからです。韓国に行くのだから、生活習慣や言語も向こうのペースに合わせるのが良いと考えていました。また、教育実習においても、韓国語を知っていて日本語を教えるのと、韓国語を全く知らずに日本語を教えるのではきっと違うだろう、韓国人学生の日本語学習方法をより理解すること



に繋がるだろうと思いましたが、ただ教えるだけでは一方的、圧力的ではないかと感じていました。日本と韓国の歴史を考えても、こちら側が一方的に何かをしたり自分達のペースを持ち込んだりしてはいけないような気がしていました。そのため私は日本で韓国語を学習してから研修に臨みました。実際韓国に行ってみると、「日本語だけで済んでしまうのではないか」という予想的中しました。周りの学生は日本にいるように振る舞ったり、日本語が話せる韓国人に対してまるで日本人に接するかのようなスピード、言葉遣いで会話をしたりしていましたが、私は自分が行動するとなるとそれが不安でなりません。韓国にいながら日本人のペースに合わせてもらうことを申し訳なく思い、また日本語をずっと使い続けることが負担になっていないか心配でした。そして、韓国の人は実際は日本人のことをどう思っているのだろう、と考えていました。幸いなことに、韓国では全員が優しく接してくださり、とてもありがたく感じました。しかし、私はやはり韓国語のみを使って街を回り、韓国の生活を体験してみようと思い、3週間のプログラムが終わって他のお茶大生がソウルへ行ったのを機に、1人で街を旅してみることにしました。そこでは、店での会話で何と言っているか、電車ではどのようなアナウンスがあるかなど、3週間のプログラムでは細かく気づけなかったことにも気づくことができました。インターネットが屋外で使用できないため韓国語を使って街の人に質問をしてみると、韓国人のコミュニケーションスタイルを知ると同時に自分自身の達成感も感じました。1人で訪問した観光名所ではスタッフの方から韓国語で説明も受けました。韓国語を通してこそ感じられる韓国の文化もあるのだな、と感じ、相手国の言語を知ることの重要性をさらに強く感じました。

## 2. 日本語教育実習

私は大学院生ではありますが、大学院入学後から日本語教育を専攻しまだ経験が浅いため、教育実習において全てが挑戦であると感じましたが、中でも最も困難だと感じたことはCan-doの概念と全て日本語で行う、ということです。Can-doが私自身も経験したことの無い学習法だったので、難しく構えてしまったところがありましたが、後でゆっくり考えてみれば内容をもっと工夫できたと思うので、次に実習をする機会があれば頑張りたいです。また、全てを日本語で行うということは、語彙レベルのコントロールも必要なので、新出語彙を日本語のみでどのように教えるかが難しかったです。そして、全体的に、私は自分の言語学習経験をあてにしていると思いました。私は自分自身が様々な言語を勉強してきたため、学習者がどういう気持ちかわかると思い込んでいたところがありました。しかし、私の学習法は、よく考えてみると授業でも間接法が多く、自己学習でも媒介言語使用（英語を使ってスペイン語を勉強する、日本語を使って韓国語を勉強する、など）がメインだったので、今回の方法とは全く違うものでした。また、自分では気が付かなかったのですが、授業内での語彙説明が難しいとフィードバックを受け、「和田さんは言語が得意だからいいかもしれないけど…」との指摘も受けました。自分の学習方法の振り返りと多様な学習者の分析の必要性が感じられました。

また、自身の性格・態度にも大きな反省点がありました。問題点は大きく3点あります。1つ目は、緊張しやすい、という点です。私はスピーチなど人前で話す時に緊張しやすく、原稿を用意していてもうまく話せないことが多々あります。今回の実習の最初の授業でも、緊張のあまり頭の中が真っ白になってしまい、原稿を手にしていても関わらず内容をとばしてしまいました。また、その後授業のペースをうまく挽回することもできませんでした。

2つ目は、人と仲良くなるのに時間を要する、という点です。今回の実習では授業を2回担当しました。学生とすぐに仲良くなり、授業内でコミュニケーションを取ることが理

想ですが、私は2回の授業では学生となかなかうまくコミュニケーションが取れずにとどろしい授業になってしまいました。しかし、よく考えてみれば、私は普段から人と仲良くなるのに時間を要しているな、と思いました。実際、事前授業があったにも関わらず他のお茶大生と話すようになったのは釜山に行ってからでした。

3つ目は、気楽に構えることができない、という点です。私は、授業で失敗をするとそれに引張られてしまい、うまく挽回ができませんでした。自分の失敗ばかり気になり、それが元で授業中も自信がなくなってしまう、悪循環でした。授業で失敗しても、それを笑い飛ばして授業のアイスブレイキングができたらどんなに良かったらうと思いました。他のお茶大生の授業も見学しましたが、彼女たちはそこをうまくやっていると感じました。ミスがあったとしても引きずられず、切り替えて授業を進めており、自分も次はそうしたいです。また、私は実際に日本語教師になりたいと思っているため、失敗できないという思いが強く、そのことでかえって固くなっていたところがありました。一方、他の学生はのびのびと、楽しそうに授業をしている印象があり、その楽しさが学生にも伝わって相乗効果があるなと感じました。自分に楽しむ余裕があれば良かった、というのが一番の後悔です。

性格には良し悪しはないと言う人もいますが、教師になるためには、これらの点は改善すべき課題だと考えます。

### 3. 複言語・複文化プログラムについて

今回の6週間の複言語・複文化プログラムにおいて感じた点は3点あります。まず、たとえ完全でなくても、少しでも異文化・異言語を知っているということは個人の物の考え方に大きな影響がある、と感じました。表現の方法や行動の仕方がどのようなものであるかを知ることで、自分と違う文化を共有する人々がどのような価値観を抱いているか、自分たちとのそれとどこが共通していてどこが違うかに気付くことができます。また、様々な文化があることで、日本の文化が当たり前ではないことに気が付き、自国のことも客観的に見ることができます。今回の研修ではカルチャーショックというほどの衝撃を受けたり異文化に戸惑ったりすることはなく、韓国の方のおかげで異文化を楽しく受容することができました。

その一方で、今回のプログラムでは多様な文化体験により複文化は得られても複言語の取得はそれよりは難しかったのではないかと思う箇所もいくつかありました。それは、前半の研修で思うように韓国語を使用する機会がなかったからです。先にも触れました通り、日本人や韓国の日本語学部の学生と多くの時間行動をともにし、説明も全て日本語で受けていたので、結局は言語的には日本のペースに合わせてもらっていたと感じます。実際、韓国語の授業内で習ったことを外で使うようクラスの先生は助言していただきましたが、団体に動いている以上使う場がありませんでした。ツアーのように名所を案内して下さるのも大変うれしいことですが、韓国語講座があるならばそれを実践できる場ももっとあってほしいと思います。

そして、今回の海外経験で、私は改めて自分の中に「日本人」という1つのアイデンティティに固定化されることのない多様な自分がいることに改めて気づきました。私にはその時話す言語によって自分の行動、コミュニケーションスタイル、さらには性格も変わる、という経験があります。それは、日本で英語を使ってコミュニケーションをする際や、スペインに留学した際に感じたものです。普段日本語で話す時よりも、欧米語で話す時の方が前向きだと感じたこともあります。例えば、誰かに自分のために時間を割いてもらった際、日本人だと「すみません」を多用するかもしれませんが、英語ではそのかわりに「ありがとう」を使います。話す単語が変わることで、感情や物の考え方も変わりました。人

の話す言語の中には、その言語を共有する人々の価値観や文化も反映されていると考えます。したがって、その言語を話せば、自然とその国の文化や価値観も理解できるように感じました。それによって、韓国では普段日本で生活している自分とは違う自分がいたように思えました。私は平素より、例えば「日本人であるから、～」「女性であるから、～」というような、1つのアイデンティティだけを強く感じることはありません。言語習得や留学の経験のおかげか、日本人でありながら日本というものを客観的に見ることができると考えています。それは今回の経験でさらに強化されたと思います。韓国にいて、「〇〇人とは何だろう」ということについて考え、「自分は〇〇人というよりは、むしろ地球人、人間でありたい」という思いも強くなりました。これからも、文化や国籍、言語、歴史に捉われることなく、個人として、1人の人間として人々と対話をしていきたいです。今回のプログラムでは、日本人と韓国人双方に触れ、韓国人個人との触れ合いを通じて彼らがどのようなことを考えているかも知る機会もあったので、とても良い機会でした。その一方、研修において日本人学生だけでなく他国出身の学生とも一緒に活動ができれば、より文化やアイデンティティについて考えることができたかなとも感じています。

日韓学生フォーラムは自分の実習が重なりプログラムに参加できなかったため、次回このような機会があれば参加してみようと思います。

最後に、今回のような機会をくださった森山先生、お茶の水女子大学の皆様、釜山外国語大学の皆様に感謝申し上げます。

## 【実習生が作成した教案】日本語 B1-1

### 1 コマ目

対象者	B1-1 のレベルの学生 (一年生が多い)			
時間	活動ごとの目標	活動	メモ	教材
10分	アイスブレイク	出席確認 名前の札を書いてもらう。		白い紙とペン
10分	ウォーミングアップ	不動産でのやり取りの発音を聞いてもらう。 その後ペアで読んでもらうその会話で出てきた 間取り図とその部屋の写真を実際に見せる。		絵付きやりとりの プリント 間取り図のプリン ト
25分	語彙	各語彙の説明 (注1) PPTで写真を出しながら 説明。生徒に質問も交えながら。		

### 教案 1 限目\*注1 語彙

- ・○階建ての△階 (授業している教室を例に出す)
- ・間取り (家の部屋の配置などの構造)
- ・間取り図 (間取りをルールに従って図形にしたもの)
- ・玄関
- ・最寄駅 (自宅から一番近い駅)
- ・(南) 向き家 (家の正面が南を向いていること)
- ・洋室
- ・和室
- ・～LDK (リビング・ダイニング・キッチンの略で、数字は部屋の数)
- ・木造 (家が木で作られていること。主に二階建てまで)
- ・鉄筋コンクリート (家が鉄筋コンクリートでできていること)
- ・高層マンション (日本と韓国のアパートとマンションの違いの説明)
- ・一戸建て (一つの建物に一世帯しか住んでいない住居)
- ・～畳/帖 (漢字の違いは和室に使うか洋室に使うか) だけど区別せずに統一なものを使う人もいる。

### \*注2 文型

(名詞) なら、～～～～。(難) (いくつか例文をあげながら)

### やりとりの内容

\*韓国から来た学生が日本でワーキングホリデーをしにきました。最初はゲストハウスを使っていましたが、不便になったのでアパートを探すことに決めました。

不動産屋さん：いらっしゃいませ。どのような物件を探していますか。

大学生：今、私は大学生で、日本でワーキングホリデーをしに来ています。今のゲストハウスが不便になってきたので、1Kのアパートを探しています。ワーキングホリデー先はGoogleです。

不動産屋さん：Google なら、会社の最寄駅から徒歩5分のところの木造のアパートがいいと思います。そこの部屋は、2階建ての1階の部屋で、南向きなので日当たりも良いです。

大学生：部屋の広さはどのくらいですか。  
不動産屋さん：8畳です。風呂とトイレも付いています。  
大学生：家賃は月にいくらですか。  
不動産屋さん：月に7万円です。  
大学生：いいですね。  
不動産屋さん：ご覧になりますか。  
大学生：はい。お願いします。  
~~~~~部屋に着きました~~~~~  
不動産屋さん：ここが玄関です。  
大学生：靴箱がありますね。  
不動産屋さん：玄関を入ったところがキッチンです。  
大学生：キッチンの向かい側の部屋はなんですか。  
不動産屋さん：そこにはお風呂とトイレがあります。  
大学生：なるほど。  
不動産屋さん：キッチンの先に部屋があります。  
大学生：広い洋室の部屋ですね。  
不動産屋さん：日が当たるので暖かいです。  
大学生：窓がとても大きくていいですね。ここにします。

#### 授業の進め方（原稿）

最初に出席をとります。大きな声で、手を上げて答えてください。~~~~~  
では、今日から二回授業を担当する山田亜実です。よろしくお願いします。  
2回の授業でみんなの名前をできるだけ覚えたいので、授業中に頑張ってみんなの名前を呼んでいきたいと思っています。そのために、ネームプレートを作ってもらいます。今から配る紙に、自分の名前を日本語で書いてください。可愛くしたい人は可愛く絵も書いてください！  
~~~~~  
終わりましたか？全員の名前をゆっくり覚えて行くので、よろしくお願いします！

では、今から住まいと住環境のトピックについて始めたいと思います。最初にプリントを4枚配るので後ろに回してください。（配り終わる）

では、このトピックでの場面を説明します。  
この韓国から来たワーキングホリデーのために日本に来た大学生がゲストハウスに住んでいました。これはあなたです。あなたは、Google にワーキングホリデーをしに来ています。しかし、住んでいるゲストハウスが狭くて不便になったので不動産屋さんでアパートを探

すことにしました。その時の会話です。不動産屋さんを知っていますか？不動産さんは、家を売ったり貸したりするところです！

では今から、私がやり取りを読むので続いて読んでください。『いらっしやいませ。(復唱を促す) どのような物件をお探しですか。~~~~~はい。お願いします。』はい、ありがとうございます。

次に、2枚目のプリントを見てください。これは、今から大学生と不動産さんが見に行く部屋の間取り図というものです。単語のプリントを見てください。間取り図とは、家の部屋の配置を表した間取りというものを簡単な絵にしたものです。これは日本全国同じ絵のルールで決まっています。例文を読んでみましょう  
大学生と不動産さんは今からこの間取り図の家を見に行くようです。

次にやりとりで出てくる単語を順番に説明します。最初に～LDKです。LDKはリビング・ダイニング・キッチンの英語の頭文字をとって作られた言葉で、(LDKを白板に書いて、各アルファベットにそれぞれ記す) 最初の～は数字が入ります。数字の部分は部屋の数を表しています。例えば、今から留学生が見に行く部屋は1Kです。1は一つの部屋を表していて、Kはキッチンがあることを示しています。この部屋にはリビングとダイニングがないのでLとDは書かずに、1Kと表します。では、(PPTで一枚の間取り図を見せる) これは、なんと表すでしょうか。部屋は、、1、2個。リビングはありますか？ダイニングはありますか？キッチンはありますか？と、なると、2LDKになります。例文も読んでみましょう。

次は最寄駅です。これは、その場所から一番近い電車の駅のことを表します。(PPTを差しながら) ここが家だとするとこちらの駅より、こちらの駅の方が近いですね。

では釜山外国語大学の最寄駅はどこですか(正解です or 南山です)。例文を読んでみましょう。

語彙のプリントにはないのですが、やり取りの中で、徒歩という単語があります。これは、歩いてという意味です。

そして、次の木造という単語は木で作られているという意味です。

次に、鉄やコンクリートで作られると鉄筋コンクリートで作られているということになります。

そして、何階建ての何階とは、建物自体は何階まであって、そのうちの何階部分に部屋があるということです。例えば、このイラストでは、ビルは7階まであります。この丸の部分の部屋は4階にあるので、この部屋は7階建ての4階にあるということになります。今この教室だとどうですか。D棟は6階まであって、この教室は2階にあるので？ 正解です。

次に、(南)向きとは、家の一番大きい窓が南を向いているということです。南の部分は窓がどの方角にあるかによって変わります。方角は知っていますか。(知らなかったら説明) 例えば、北を向いていたなら、『北向き』となります。

次に、畳(帖)です。これは部屋の広さを表す単語で、1畳は畳1枚分に相当します。ここに漢字が二つあるのがわかりますか？これは、洋室を表す時と、和室を表す時で漢字を使い分けます。洋室は、フローリングの部屋です。しかし、今は使い分けは人によるみたいです。大きさは、どちらも同じ大きさを表しています。ちなみに、韓国でよく使われる坪と比較すると、1坪が約2畳分です。

また、このやり取りにはないですが、語彙リストには『玄関』という単語があります。これはみなさんわかると思いますが、靴を脱ぐ場所です。

最後に、日本のアパートと韓国のアパートでは意味がちょっと違ってきます。韓国で、アパートというところな感じだと思います。(PPT見せる)これは日本ではマンションというものです。語彙リストの高層マンションとは、こちらでいう、カンアンリにあるような高くて、値段も少し高いアパートのような感じです。

(もし時間が余ったら)

では、語彙の復習プリントの穴埋め問題をしてみてください。~~~~~

50分になったので休憩にします。穴埋め問題のプリントの答えは休憩中に机の上に置いておきます。

(時間が足りなかったら)

それでは50分になったので授業を一旦終わりたいと思います。語彙の復習プリントも用意してるので、お家に帰った時などにぜひやってみてください。ありがとうございました。

## 2 コマ目

時間	活動ごとの目標	活動	メモ	教材
15分	文型	文型の説明(注2)やりとりのプリントを中心に文型をチェック。		
10分	やり取りの二個目	二個目のやりとりを復唱してもらう。それから、ペア同士で読み合ってもらおう。わからない単語とかがあれば、お互いに聞いたり、先生に聞いたりする。		やりとりのプリント
15分		自分の家の絵を大体書く。ペアで隣の人に紹介する。		白い紙1枚
5分	来週の info	漢字テストがあるということを伝える。		

それでは授業を始めたいと思います。

最初にさっきのやりとりで使う文型を勉強したいと思います。3つ目の不動産屋さんのセリフを見てください。『Google なら、大学の最寄駅から徒歩5分のところの木造のアパートがいいと思います。』と、あります。これは、~~~~なら、~~~。というアドバイスの文になっています。他の例文をいくつか挙げて見たいと思います。~さん読んでください。

では、次に丁寧語です。丁寧語はです・ますを使って話す言葉です。みなさん、すでに習っていて知っていると思います。初めてあった人に対しては、丁寧語を使いましょう。また、年齢が上か下かわからない時や、私が今話してるような大勢の人に向かって話すときにも使います。私は授業中は丁寧語を話しています。~~さん読んでください。

最後に、このやりとりの最後の不動産屋さんのセリフを見てください。『ご覧になりますか』とありますね。これは、辞書形で『ご覧になる』という動詞で、特別な尊敬語というものです。この意味は『見る』で、尊敬語を使わなければいけない相手が『見る』という動作をするときに使う言葉が、『ご覧になる』というものです。この他にも、特別な尊敬語は色々な種類があって、時間的に足りないので全部は説明できませんが、他にも、言うの意味のおっしゃる、来るの意味のいらっしゃる、そして、くれると言う意味のくださるがあります。

では次に、プリントの二つ目のやりとりの練習をしたいと思います。私に続いて発音してください。~~~~~

はい。これは、先ほどのやり取りよりも簡単に理解ができると思います。今から、ペアで役割交代しながら、もう一度音読してみてください。そして、もしわからない単語などがあれば、お互いに聞いてみたり、辞書を引いてみたり、私に聞いてみたりしてください。

それでは、終わってください。

次に自分の今の家か、部屋の絵を描いてみましょう。例えば、私の家は、、(ホワイトボードに絵を描きながら) こんな感じに家を描いてみてください。そして、出来上がった家の



絵を、ペアで紹介してみてください。例えば、〜〜 (ホワイトボードの絵で説明)。紹介された人は、もし、その部屋に対して質問があれば、聴いてみてください。

では、まず、絵を描いてみましょう。

~~~~~(2~3分)

それでは、お互いに紹介してみてください。もし終わったら、前後の人にも紹介してみましょう。

それでは終わってください。

最後に次の授業の予告です。単語の漢字をしっかり勉強してきてください。最後の時間にちょっとだけ漢字のテストをやります。語彙リストの語彙の漢字からしか出さないの、勉強してきてください。これで授業を終わります。

## 【実習生が作成した教案】日本語 B1-2

9月11日 月曜 8・9限 「からだと健康」 B1-2 (近澤 里奈)

| 時間  | 活動内容                                                                                                                                                              | 評価                                            | 備考                                      |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 10分 | <b>【導入】</b><br>①何歳まで生きていきたいですか？<br>長生きするためには健康であることは重要である<br>②病院や薬に頼らない健康法<br>日本の「ネギを首に巻く」方法を紹介した上で、韓国にはどのような健康法があるかを考えてもらう。<br>③「からだと健康」B1-2の can-do の確認<br>音読する |                                               | 導入の前にみんなに名札を書いてもらう(2分)<br>③は時間がなかったらカット |
| 10分 | <b>【語彙説明】</b><br>漢字の読み、語彙の意味を確認する                                                                                                                                 |                                               | プリント配布                                  |
| 25分 | <b>【聞き取り】</b><br>「世界の風邪の治し方」<br>①音声流す<br>②プリントの( )内を穴埋めする<br>→答えあわせ<br>③音声の内容に関する質問<br>隣の人と確認→答えあわせ<br>*音声は全部で3つ<br>(アメリカ、ロシア、インド)                                | 音声の内容を理解し、プリントを埋められているかどうか。質問に正しく答えられているかどうか。 |                                         |
| 5分  | <b>【聞き取りのスクリプト音読】</b><br>プrintの裏面に載っている音声のスクリプトを音読する(漢字の読みは記載してある)。                                                                                               |                                               | カットしてもOK                                |

| 時間  | 活動内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 評価                                            | 備考                              |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------|
| 5分  | <b>【体の部位の語彙確認】</b><br>学生に質問をしながら、体の部位の名称を確認する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                               | PPT                             |
| 15分 | <b>【やりとり】</b><br>Aどこかに痛みを抱えている人とBお医者さんの二役でインフォメーションギャップを作り、やりとりを通してそのギャップを埋める。<br>①モデル会話(3分)<br>A:背中が痛い人(近澤)<br>B:お医者さん(和田)<br>モデル会話を通して、やりとりの流れを学生が理解できるようにする。<br>②モデル会話の音読<br>③やりとりの準備(3分)<br>A、Bの役の人にそれぞれ別のプリントを配り、それぞれがやりとりの準備を行う<br>Aはその人物がどういう人で、どうして痛めたかという原因を考える。<br>Bはストレッチの絵を見てAにどうストレッチを伝えるかを考える。<br>④やりとり(10分)<br>AとBでやりとりをし、痛めた原因やそれを改善するストレッチがお互いにかかるようにする | ペアでやりとりをして、情報ギャップを埋めることができているか。               | プリント配布<br>②モデル会話の音読は時間がなかったらカット |
| 20分 | <b>【やりとりの発表】</b><br>それぞれのペアにやりとりを発表してもらう<br><br>*それぞれのペアのBがストレッチを紹介するとき、クラス全体でストレッチを実践してみる                                                                                                                                                                                                                                                                               | 発表している人も聞いている人もストレッチの指示を理解して、正しい動きができているかどうか。 | 時間がなかったら代表の2ペアだけとか(10分)         |
| 10分 | <b>【次回予告】</b><br>次回行うスピーチ発表の概要を説明する<br>①モデルスピーチ<br>近澤が実際にモデルスピーチを披露する<br>②スピーチ発表の概要説明<br>発表してもらう項目が書かれたプリントを配布し、何を準備すればよいか、学生が理解できるようにする<br>③メモの作成<br>発表する内容をその場で少し考えてもらう                                                                                                                                                                                                |                                               | プリント配布<br>時間がなかったら③はカット         |

|    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 宿題 | 次回授業(木曜5・6限)までにスピーチのプリントを完成させること |
|----|----------------------------------|

|       |                                                       |                                                                                                                  |                                                                          |               |
|-------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 日時    | 2017/9/12 13:00～13:50                                 |                                                                                                                  |                                                                          |               |
| 指導教員  | 山田美奈                                                  |                                                                                                                  |                                                                          |               |
| 対象者   | B1-2 (授業時間：50分)                                       |                                                                                                                  |                                                                          |               |
| 授業の目標 | ホームステイに来る日本人に対して自分の部屋の配置や、注意事項について説明することができる。         |                                                                                                                  |                                                                          |               |
| 指導項目  | 住まいに関するものの名前・間取り図の読み方<br>～してください／～しないでください            |                                                                                                                  |                                                                          |               |
| 時間    | 活動ごとの目標<br>(課題)                                       | 活動                                                                                                               | 活動ごとの評価ポイント                                                              | 教材／教具         |
| 10分   | 今日の授業のトピックになじむ。                                       | ①今日の授業のCan-doの確認<br>②部屋の写真を見ながら、部屋の名称や家電の名前を確認していく。                                                              | 住まいに関する単語を日本語で言えるかどうか                                                    | プリント<br>P P T |
| 25分   | 間取り図に書いてある用語を見て何がどこにあるのか理解することができる。<br>【理解】           | ①間取り図にある用語の確認<br>②ゲストハウスの説明文を聞いて、いくつかある間取り図の中から適切な部屋を探す。<br>③グループでゲストハウスの注意事項について聞き取れているか確認する。                   | 最初に確認した和室の様式や間取り図の読み方を利用して、答えを導けるかどうか。～てください、～しないでくださいと言う表現が聞き取れているかどうか。 | プリント<br>P P T |
| 15分   | ホームステイに来る日本人に対して自分の部屋の配置や、注意事項について説明することができる。<br>【表現】 | ①自分の部屋の間取り図を簡単に書く<br>②「あなたの家に2週間ホームステイをしに日本人がやってきました。その人に自分の家の中を案内してください。そのときに、注意事項も一緒に説明してください」という場面設定の作文を書かせる。 | 実際に家に来る日本人に説明するように、話し言葉でわかりやすく書くことができるかどうか。                              | プリント          |
| 宿題    | 作文を書き終わらなかった人は、今日中に二色先生の研究室に提出                        |                                                                                                                  |                                                                          |               |

|       |                       |                                                                                                                            |                                |                      |
|-------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------------|
| 日時    | 2017/9/14 12:00～12:50 |                                                                                                                            |                                |                      |
| 指導教員  | 山田美奈                  |                                                                                                                            |                                |                      |
| 対象者   | B1-2 (授業時間: 50 分)     |                                                                                                                            |                                |                      |
| 授業の目標 | 物件情報を読むことができる。        |                                                                                                                            |                                |                      |
| 指導項目  | 部屋の改善点、物件用語、各部屋の特徴    |                                                                                                                            |                                |                      |
| 時間    | 活動ごとの目標<br>(課題)       | 活動                                                                                                                         | 活動ごとの評価ポイント                    | 教材/教具                |
| 5分    | 出席確認・アイスブレイク          | 住んでいる部屋について、不便や不満なことがあるか質問する。次に引っ越すとしたらどんな部屋に住みたいか質問する。                                                                    | 第一回で学んだ部屋に関する単語を使って表現できるか。     |                      |
| 10分   | 作文返却・共有・語彙の補足         | 第一回で書いた作文の添削を返却し、多かった間違えやよかった表現を紹介する。                                                                                      | 友人の性格をふまえて推薦文を正しく書けているか。       | PPT                  |
| 10分   | 家・部屋の改善点について話すことができる。 | 雨漏り・日当たりが悪い・すきま風などの絵を見て、改善点についてどのように表現するのか確認する。                                                                            | 部屋の改善点を日本語で言えることができるか。         | PPT                  |
| 25分   | 物件情報を読むことができる。        | ①実際の物件情報にどのような内容が書かれているか見ながら語句(敷金・礼金・共益費など)の確認をする。<br>②日本で人気のある角部屋・南向きの部屋についての特徴を確認する。<br>③学習者一名の理想の部屋について、実際のサイトを使って検索する。 | 物件情報の読み方を理解して、理想の部屋を探すことができるか。 | PPT・プリント<br>不動産の URL |
| 宿題    | なし                    |                                                                                                                            |                                |                      |

|       |                                     |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
|-------|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 日時    | 2017/9/14 13:00~13:50               |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 指導教員  | 山田美奈                                |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 対象者   | B1-2 (授業時間: 50分)                    |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 授業の目標 | 条件にあった住まいを提案することができる。               |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 指導項目  | 条件:【い形い】 ければ、～。<br>提案:【動詞・名詞】 なら、～。 |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 時間    | 活動ごとの目標<br>(課題)                     | 活動                                                                                                                                                                                             | 活動ごとの評価ポイント                                                                     | 教材/教具        |
| 5分    | 出席確認・アイスブレイク                        |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 20分   | 日本の学生の住まいについて特徴を理解することができる。         | ①日本の学生は主に大学寮・学生会館・シェアハウス・一人暮らしをすることを伝え、大学寮・学生会館について補足説明をする。<br>②グループでそれぞれの生活のメリット・デメリットについて話し合う。<br>③クラス内で共有                                                                                   |                                                                                 | P P T        |
| 20分   | 条件にあった住まいを提案することができる。               | ①Aさんは日本に留学が決まったが、留学先の大学には寮がありません。Aさんは部屋を探さなければいけないという場面設定を提示する。<br>②参考に人物リスト(犬が好き、朝が弱いなど)を提示し、自由にAさんの性格を決める。<br>③条件を示す表現・提案の表現について確認する。<br>④Aさんの希望をもとにグループで適切な住まいを提案するダイアログを作る。<br>⑤クラス内で共有する。 | ・第一回の授業で学んだ性格を表す表現を使い、人物像を設定することができるか。<br>・希望の条件を表現したり、相手の希望を理解して適切な提案ができるかどうか。 | P P T ・ プリント |
| 5分    | 最後のあいさつ                             |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |
| 宿題    | なし                                  |                                                                                                                                                                                                |                                                                                 |              |

教案（和田夏海）

| 時間                      | 教師の働きかけ・学生の活動                                                                                                                                | 注意点                                                                                                                          | 使用教材                                                                                        |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 漢字テスト<br>(10分)          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布し、漢字テストを行う。</li> <li>・時間になったら回収する。</li> </ul>                                                 |                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント</li> </ul>                                     |
| 練習<br>(40分)<br>「ロールプレイ」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に聞き取りをさせる、確認（10分）</li> <li>・モデル会話の提示、AとBの決定、ロールプレイの練習（15分）</li> <li>・ロールプレイの練習をする。（15分）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの物件を説明する。</li> <li>・自分たちの発表原稿のメモを取らせる。</li> <li>・モデル会話にはない自由な発話があっても良い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声</li> <li>・プリント</li> <li>・ホワイトボード（必要時）</li> </ul> |

| 時間                             | 教師の働きかけ・学生の活動                                                                                                                                                                           | 注意点                                                                                                                                                                                  | 使用教材                                                                           |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 練習続き<br>(20分)<br>「ロールプレイ」      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで発表させる。</li> </ul>                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の会話に耳を傾ける。</li> </ul>                                                                                                                      |                                                                                |
| まとめ<br>(30分)<br>「どんなところに住みたいか」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布し、これまで習った内容をふまえて、「自分がどんなところに住みたいか（部屋、家、周辺施設、環境含む）」、「自分の今の部屋をどのような部屋にしてみたいか」に関する作文を書かせる。（25分）</li> <li>・1人ずつ発表させる。スピーチをする。（5分）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて語彙を追加する。</li> <li>・学生の質問に応じる。</li> <li>・書き終わった学生の文章を確認し、添削する。</li> <li>・漢字テストの採点を終え、返却する。</li> <li>・回収した作文は後ほど学生にフィードバックする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント</li> <li>・ホワイトボード（必要時）</li> </ul> |

## 【実習生が作成した教案】日本語 B2-1

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象者   | B2-1 レベルの一般成人（大学生）クラス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 授業の目標 | トピック：からだと健康<br>レベル：B2-1<br>言語活動：〈理 解〉 ドラッグストアにある商品の説明などを読んで理解したり、商品名から何に使うのかを想像したりすることができる。<br>〈やりとり〉 自分の体調や症状についてその詳細を説明したり質問に対して具体的に答えられる。<br>〈表 現〉 日韓の医療に関する制度やサービスについて比較し自分の意見を述べるることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 場 面   | 〈理 解〉 日本のドラッグストアでお土産や頼まれたものを買う<br>〈やりとり〉 ホームステイ先で体調を崩しホストファミリーに症状を説明する<br>〈表 現〉                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 指導項目  | 語彙：ドラッグストア、医薬部外品、日用品、頭痛薬、便秘薬、目薬、サポーター、湿布、洗顔<br>除湿剤、芳香剤、柔軟剤、レトルト食品、駄菓子、軟膏<br>だるい、疼く、熱っぽい、寒気、ズキズキする、ジンジンする、介護人、偏頭痛、胃炎、便秘、盲腸、目眩、鈍痛<br><br>文型・表現：〈理 解〉 ・～はどこに置いてありますか ・一番よく効くものは何ですか<br>・～べき／べきだ／べきではない ・～〈V〉たのですが…<br>・税込みですか、税抜きですか、免税対象になりますか<br>・ばら売り／まとめ売りのものはありますか<br>〈やりとり〉：訴える側 ・～を感じます ・～（時間）から ～が ～です<br>・～〈Adv〉する、痛む ・～っぽい（のよう）です<br>・違和感があります<br>・横になりたい／横たわりたいです ・吐きたいです<br>・薬を飲みたいです ・病院に行きたいです<br>聞き手 ・どのような状態ですか ・具合はどうですか<br>・どうしたいですか<br>〈表 現〉 ・～に対して ～は ～です。 |

### 1 〈理解〉

| 時間  | 目標                              | 活動                                                                                                                                                     | 評価のポイント                      | 教材                      |
|-----|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------|
| 5分  | 授業の目標を理解する                      | 【導入】<br>教師：①日本のドラッグストアを知っているか聞いてみる<br>②目標の説明どのような場面が思い浮かぶかを聞く                                                                                          | トピックと目標に興味を持つことができるか         | 目標のPPT                  |
| 15分 | 語彙・表現を理解する<br>商品を予測し理解する        | 【語彙・表現・商品名】<br>教師：①商品名・価格のPPTを見せる→予測させる<br>目標達成のために必要な語彙・表現リスト配布<br>②一つずつ説明し、随時質問を受ける                                                                  | 予測できるか<br>適切な語彙・表現を理解できるかどうか | 語彙リスト<br>代表的な商品名・価格のPPT |
| 10分 | 商品の説明文を読む、語彙・表現を理解する            | 【説明文を読む】<br>教師：①商品の説明文が載ったプリントを配布する<br>②一人ずつ読んでもらう<br>③語彙や表現の説明をする                                                                                     | 説明文を積極的に理解しようとするか            | 商品の説明文が載ったプリント          |
| 10分 | ロールプレイをし、実際に語彙や表現を使ってみる         | 【ロールプレイ】<br>教師：①ドラッグストアで使う表現のプリントを配布する<br>②2、3人のグループをつくる<br>③店員役、お客さん役を決める<br>客：～のときに使うものは何か<br>：どのくらいの頻度で使えばよいか<br>：～はどこに置いてあるか<br>店：説明文で得た情報を交えて説明する | ロールプレイを通して語彙や表現を使用することができるか  | 表現プリント                  |
| 10分 | これまで使用した語彙・表現・商品を理解する<br>授業のまとめ | 【ワークシート】<br>教師：①ワークシートを配布する<br>②10分くらいで解いてもらう                                                                                                          | ワークシートに適切な語彙・商品名を記入できるかどうか   | ワークシート                  |

## 2 〈やりとり〉

| 時間  | 目標                        | 活動                                                                                                                 | 評価のポイント                                     | 教材              |
|-----|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------|
| 5分  | ワークシートの答え合わせ              | <b>【答え合わせ】</b><br>教師：一人ずつ指名して答えてもらう                                                                                | ワークシートに書いた答えを言えるか                           |                 |
| 15分 | 授業の目標・場面・語彙を理解する          | <b>【導入】</b><br>教師：①授業の目標・場面の説明をする<br>②ホームステイ先でなくとも似たような場面に遭遇したことがあるか聞いてみる                                          | 目標と場面に興味を持ち、理解しようとするか                       | 目標・場面、語彙・表現プリント |
| 10分 | 表現を理解する                   | <b>【ロールプレイ準備】</b><br>教師：①訴える側の表現(痛みを訴える表現、意志を伝える)<br>リストと聞く側の表現リストを配る<br>②意味と使い方の確認をする、質問を受ける                      | 語彙・表現の意味に関心を持ち、理解できるか                       |                 |
| 10分 | ロールプレイを通して、適切な語彙や表現を使ってみる | <b>【ロールプレイ】</b><br>教師：①2、3人のグループをつくる<br>②ホストファミリー(1or2人)／留学生(1人)<br>ホストファミリー訳は聞き手／留学生は話し手<br>症状やどうしたいかをリストを参考に説明する | ロールプレイを通して目標への理解を深めることができるか<br>語彙・表現を理解できるか | プリント            |
| 5分  | 発表する                      | <b>【発表】</b><br>教師：①発表する順番を決める(グループ)<br>②ロールプレイでしたことを発表してもらう                                                        | 共有することができるか、新たな気づきを得られるか                    |                 |
| 5分  | ・まとめ                      | <b>【まとめ】</b>                                                                                                       |                                             |                 |

## 3 〈表現〉

| 時間  | 目標                      | 活動                                                                   | 評価のポイント                  | 教材  |
|-----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----|
| 5分  | 復習・フィードバックする            | <b>【導入】</b><br>教師：メールで提出してもらった作文をフィードバックする<br>添削したものを一人ずつ返し、質問を受け付ける |                          |     |
| 5分  | 〈表現〉・場面の説明をする           | <b>【導入】</b><br>教師：〈表現〉・場面の説明をする、資格試験対策                               | 興味を持つことができるか             |     |
| 5分  | 〈表現〉・場面を理解する、自分の考えを述べる  | <b>【質問】</b><br>日韓の医療に関する制度やサービスについて相違点・類似点を思いつくものをあげてもらう。            | 自分の考えを適切に伝えることができるかどうか   |     |
| 15分 | 日韓介護保険制度を比較したリストを理解すること | <b>【具体的なトピック提示】</b><br>教師：日韓介護保険制度を比較したリストを配る<br>わからない語彙の説明をする       |                          | リスト |
| 15分 | 自分の意見を書くこと              | <b>【意見を書く】</b><br>比較したリストのなかから見られる問題点や課題などを2つ以上考えて、それに対する自分の意見を書いてみる | 問題点や課題に対する自分の意見を書くことができる |     |
| 5分  | まとめる                    | <b>【まとめ】</b><br>次の授業で一人ずつ意見を述べる時間があるということを説明する。                      |                          |     |



## 4

| 時間  | 目標                 | 活動                                                  | 評価のポイント                     | 教材 |
|-----|--------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------|----|
| 10分 | 書き終える、意見をまとめる      | 【前回の授業の続き】                                          |                             |    |
| 10分 | 近くにいる人に意見を述べる      | 【ピアワーク】<br>2、3人のペアを組み、自分の意見・考えを述べる<br>お互いにフィードバックする | これまでの授業で使用した語彙や表現を使って表現している |    |
| 20分 | クラスの全員の前で自分の意見を述べる | 【発表】<br>一人ずつ自分が書いたことを発表していく。                        | 授業で使用した語彙や表現を使って表現している      |    |
| 10分 | 授業のまとめ             | 【まとめ】<br>これまでの授業のまとめをし、質問をうける                       |                             |    |

[トピック 3 からだと健康]

日 時 : 9/11(月)13:00-14:50 (授業時間 100 分)

場 所 : D326

対 象 者 : 日本語 B2-1 レベルの釜山外大生

目 標 : ドラッグストアにある商品の説明などを読んで理解したり、商品名から何に使うものかを想像したりすることができる。自分の体調や症状について、その詳細を説明したり、質問に対して具体的に答えることができる。

場面設定 : 日本滞在中、ドラッグストアで欲しいものを (店員さんと相談しながら) 買う。

| 時間  | 活動ごとの目標 (課題)                       | 活動                                                                                                                                  | 教材     | 備考                           |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------|
| 5分  | 緊張をほぐす                             | ペアを作って「どうして釜山外大にきたのか」をテーマに3分ほど話してもらう。                                                                                               |        | スライドに座席順を提示                  |
| 5分  | 今日のトピックに馴染むことができる。また問題意識を持つことができる。 | 「体調が悪いときどうするか」(ドラッグストアがでてきたら)→「日本で体調が悪くなったら?」→薬剤師さんから二つの薬を提示されたら?→少しでもスムーズに買えるように勉強しましょう!!                                          |        |                              |
| 5分  | 日本の商品に触れてみて考えてもらう。                 | 数種類の胃薬、頭痛薬、洗顔料、風邪薬の効果・効能の写真をスライドで提示。どんな商品でどんな用途かを考えてもらう。(その場で答える)                                                                   | PPT    |                              |
| 10分 | 新出単語を知ってペアで話しながら語彙を増やす。            | オノマトペ・症状の語彙と商品の説明文部分だけが書かれたプリントAを配布。一旦私が読み上げる。アプリなどを使って単語調べ、読解をやってもらう。ペアで話しながらやってみよう。                                               | プリント A |                              |
| 5分  | 正しい理解をする。                          | プリントの答えを私が言う。                                                                                                                       |        |                              |
| 20分 | やりとりの練習をするための語彙や表現を学ぶ。             | 風邪を引いたという設定で自分の症状にあった風邪薬を買う練習をペアで行う。モデル会話が書かれたプリントB配布。役を交代しての練習も行う。両方がどちらの役もやれるように。私が症状を各自に割り振り、プリントの*マーク網掛けの部分を自由に考えてもらう。サンプル会話提示。 | プリント B | 熱・喉・鼻水・咳などの症状をあらかじめ与える。薬並べる。 |
| 10分 | 休憩                                 |                                                                                                                                     |        |                              |
| 25分 | メモを見ながらやりとりの場면을再現できる。              | 先ほど練習したものを前に出て発表してもらう。私がここでどちらが薬剤師さん役かを指名する。一人2分程度。                                                                                 |        | 適したものを選んでいるかで評価。             |

ここで理解と表現の内容は終了です。

| 時間     | 活動ごとの目標 (課題)                      | 活動                                                                                                                                | 教材              | 備考                                   |
|--------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| 25~30分 | 新しいトピックに触れる。様々な資料を見てインスピレーションを得る。 | 安楽死の導入。「安楽死を知っているか」→安楽死についてのデータ・エンディングノート (PPT) や新聞記事 (紙媒体) などを紹介。(今の時点での学生さんの考えも聞くことができれば…) これについての自分の意見を木曜までにまとめることを宿題とする。次回発表。 | PPT<br>新聞記事のコピー | 木曜の発表は一人2~3分程度でPPTなどの使用はなし。前に立って口頭で。 |
| 5~10分  | 今日のトピックに対する感想を書く。                 | コメントペーパー配布。質問や感想など自由記入 (安楽死については書かない)。                                                                                            | コメントペーパー        |                                      |

必要書類：プリントA

プリントB

安楽死についての関連語句（韓国語訳）

安楽死についての新聞記事

コメントペーパー

PPT：日本の薬の紹介（胃薬・頭痛薬・洗顔料・風邪薬）

プリントBのサンプル会話

安楽死・尊厳死の導入

[トピック3：からだと健康]

日 時：9/14(木)12:00-13:50(授業時間 100分)

場 所：D218

対 象 者：日本語 B2-1 レベルの釜山外大生

目 標：尊厳死・安楽死について、他人の意見と比較しながら自分の意見を述べる  
ことができる。

場面設定：大学の授業で安楽死や尊厳死に対する他の学生の意見を聞いて、比較を交え  
ながらディスカッションをする。

安楽死にした理由：日本も韓国も少子高齢化→自分の死を考えることで自分を見つめて今  
をよりよく生きるために考えて欲しいトピックだったから。

| 時間  | 活動ごとの目標(課題)                      | 活動                                        | 教材                | 備考                   |
|-----|----------------------------------|-------------------------------------------|-------------------|----------------------|
| 10分 | ウォーミングアップ。                       | ペアと日本語で話す。「韓国のお勧めのお土産は？」                  |                   | 私に勤める設定。何組か当てる。      |
| 40分 | トピックについて自分の言葉で表現することができる。        | 準備してきてもらった内容の発表。                          | メモ用のプリント          | スライドなし。前で一人2~3分程度。   |
| 10分 | 休憩                               |                                           |                   |                      |
| 15分 | 難しいトピックについての日本語を聞き取る。            | 録音した日本人の声を聞きながらプリントの穴埋めをする。授業の最後にスクリプト配る。 | 穴埋めプリント           | 比較してみる。              |
| 25分 | 他の人の意見を聞きながら自分の意見を述べる<br>ことができる。 | 三人一組でグループになってトピックについてのディスカッションをする。        | 白紙プリント            | 積極的に発言できているかが評価ポイント。 |
| 10分 | 自分の感想・意見を書く<br>ことができる。           | コメントペーパー配布。授業のまとめや感想など自由記入。               | コメントペーパー<br>スクリプト |                      |

必要書類：スピーチの要点を書くもの

日本人のコメントの穴埋め（最後は要約？）

日本人のコメント スクリプト

各グループに配るディスカッション用の白紙

コメントペーパー

ウォーミングアップのペアの決め方：誕生日順

発表順番：くじ引き

宿 題：「BUFSトーク」に自分の意見を投稿してください。詳しいことは諏訪先生に  
お願いします。

【実習生が作成した教案】日本語 B2-2

B2-2 クラス 9月12日(火) 2・3限目 トピック [自分と身近な人々] 教案

実習生の名前 高橋恵里

| 時間    | 目的        | 教具   | 教師の言語行動                                                                                                                                                                                       | 学習者の言語行動                          | 備考                |
|-------|-----------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------------|
| 00:00 | 出欠確認      |      | 名前を呼ぶ                                                                                                                                                                                         |                                   | 最初の音楽             |
|       | ウォーミングアップ |      | さあ、今日から2回授業を担当させていただきます。私の名前は覚えていますか？ありがとうございます。では宜しくお願いします。みなさん、週末何をしましたか？先週の木曜日の授業でみなさんに自己紹介してほしいとお伝えしましたが、準備は大丈夫ですか？順番は名簿順でもいいですか？                                                         | S：高橋恵里さんです。まず、発表したい人。いなければ二人にきく   |                   |
|       | 導入        |      | (一人ずつ発表してもらい、一人一人質問を投げかけられるように努力する)                                                                                                                                                           | タイムキーパーをする                        |                   |
| 00:40 |           |      | みなさん、自己紹介ありがとうございました。日本に様々な関心を持っているんですね。私が韓国に最初興味を持ったきっかけは中学生のときに見た韓国ドラマでした。大学に入ってから韓国語を勉強し、釜山外大の方とテレビを通して一緒にお互いの文化について授業を受けました。今回、韓国で実習を受けることにしたのは釜山外大の方との交流を通して、韓国は実際にどんなところか、知りたいと思ったからです。 |                                   |                   |
|       |           |      | 皆さんはこれまで日本人との交流を持ったことはありませんか？日本人と話していて、韓国の文化との違いを感じたことはありませんか？                                                                                                                                | 手を上げてもらう<br>→上げた人に体験を聞く<br>(二人まで) |                   |
|       |           |      | (あまり乗ってこないときは)<br>韓国に来て、電車に乗っていると若い人がすんなりとお年寄りの方に席を譲ったり、逆にお年寄りの方が「アンジュセヨ！」と言って席を勧めてくれたりしたことがありました。あと、荷物を持ってくれるんですね。助け合いの精神が素晴らしいですね。日本ももっと無関心にならずに積極的にできるといいなと思いました。日本で嬉しかったことはありますか？         |                                   |                   |
| 00:50 |           |      | そろそろ時間でですね、休憩しましょう。                                                                                                                                                                           |                                   |                   |
| 00:00 |           |      | (さっきの時間の話では)日本人との交流があまりなかった人もいますよね。これから日本に留学する、または就職することで日本人と交流を持つ人もいますよね。                                                                                                                    |                                   | グループを作る<br>(3334) |
|       | 本題        | ppt1 | そこで、この時間では日本人と関わるみなさんと一緒に日本人のコミュニケーションスタイルについて考えていきたいと思います。まず、プリントを配りますね。                                                                                                                     |                                   |                   |
|       |           | ppt2 | 目標です。(スライド)<br>今回日本人のコミュニケーションの特徴としてとりあげたのは、あいまいな表現の多用です。あいまいな表現とは、はっきりと言わないこと、いろいろな意味に取れる表現のことです。日本人はあいまいな表現を本当によく使います。                                                                      |                                   |                   |
| 00:05 |           | ppt3 | 例えばこの言葉「大丈夫です」。「大丈夫です」はみなさんも知っていますよね。先ほど「準備は大丈夫？」と聞きました。日本人は「大丈夫です」を本当によく使います。「大                                                                                                              |                                   |                   |

|       |      |                                                                                                                                                                                                 |                                                                    |
|-------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
|       |      | <p>丈夫です」はどんなときに使うかは考えたことはありますか？今から3つ、事例を挙げてみます。(事例を読む 事例1、～)</p> <p>さあ、それぞれどのような意味になるでしょうか？また、どのように言い換えられますか？○○さん、事例1をお願いします</p> <p>事例2 ○○さん<br/>最後、○○さん、事例3はどうですか？</p>                         | <p>三人にきく (聞いてない人)</p>                                              |
| 00:10 | ppt4 | <p>ありがとうございます。私はそれぞれこのような意味があると考えました。<br/>(スライドを読む)</p>                                                                                                                                         | <p>みなさんもそう思いますか？</p>                                               |
|       | ppt5 | <p>実は「大丈夫です」は最初からこのような意味があったわけではありません。プリントを見てください<br/>(スライドを読む)</p> <p>韓国語のケンチャナヨとはどんな違いがありますか？中国語では？</p>                                                                                       | <p>一人答えられる人がいたら</p>                                                |
|       | ppt6 | <p>他にはこんな場面であいまいな表現がよく使われます (スライドを読む) 若者ほどあいまいな言葉を好みます。(名詞ととか、みたいな、ぼい) など]</p>                                                                                                                  |                                                                    |
| 00:15 |      | <p>ではここでワーク1です。(問題を読む)</p> <p>さあどうします？</p> <p>グループで話し合ってみましょう。3分くらい</p>                                                                                                                         |                                                                    |
| 00:18 |      | <p>聞いてもいいですか？</p>                                                                                                                                                                               | <p>全てのグループできく</p>                                                  |
| 00:23 |      | <p>ありがとうございます。<br/>相手の好みを否定するのは避けたいので、私なら、「別の友達とその映画を観る約束をしてしまったんですね」と嘘をつきます。でもたまに嫌でもしよるがなくなるときもありますね。</p>                                                                                      | <p>ここではっきりと、「私そういうのは嫌いなので」や「あまり行きたくないです」と言ってしまうと関係が悪くなってしまいます。</p> |
|       | ppt7 | <p>では、日本人はどうしてこんな曖昧な表現、周りくどい表現を使うのか、ここで中国人の研究者が書いた論文を紹介します。ワーク2を見てください。</p>                                                                                                                     |                                                                    |
| 00:30 |      | <p>読みながら解説しますね。(読む)</p> <p>わからない言葉はありますか？</p> <p>ではこの下にそれを3点でまとめてみました。<br/>空欄には何が入りますか？○○さん<br/>(内容を解説)</p>                                                                                     |                                                                    |
|       |      | <p>日本人のコミュニケーションは基本「場の空気」が大切にされています。聞いたことはありますか？場の空気とは、例えば今この教室で大きな声で喋っていたらおかしいですよ？そうした状況によって言うべきこと、するべきことを判断することです。日本人は特に場の空気、穏やかな状況を崩したくないと考えます。そのため日本人は物事ははっきり言いません。そのためこのような曖昧な表現を好みます。</p> | <p>3人にきく さっき発表しなかった人</p>                                           |
| 00:40 | ppt8 | <p>実はこの曖昧な表現ですが、日本人の間でも問題が起きているんです。(スライド) 特にこう言った言葉は若者が使うので、年上の人には理解されないんです。<br/>実際日本人と話していて、このような経験はありますか？</p>                                                                                 | <p>いれなきゃいけない自分の体験</p>                                              |

|       |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |             |  |
|-------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--|
| 00:45 |  | <p>ppt9</p> <p>他にもわからないと思ったことはありますか？</p> <p>ではビジネスではどうでしょうか。ビジネスでは日常会話とは異なる、その場にあった適切な表現が求められます。これらの表現は日本人が考える、理想的なビジネス会話としてサイトにあったものを元に作りました。<br/>(スライド～パターン) ビジネスでは日常会話に比べてはっきりとした言葉が使われますが、相手に言いにくいことはやはり遠回し表現が使われることもあるのです。相手の意見をあまり否定しないのでチームで納得いくまで話し込んだり、上司や取引先の心情や思惑を察して配慮しながら行動していくことを大切にします。そのため特に欧米人に、「日本人は礼儀正しいけれどはっきり言わないので何を考えているかわからない」と言われることがあります。日本で働いた人はどんなビジネスマナーを学びましたか？また、これから働きたい人も学んだことはありますか？これまでの話を聞いて疑問に思ったことはありますか？</p> | 一人にきく       |  |
| 00:50 |  | <p>ppt10・11</p> <p>そこで皆さんに考えてもらいたいことがあります。<br/>(ワーク3の説明 日本でも意見が割れている) 意見をまとめてもらい、木曜の最初漢字テストの後に少しディスカッションしてもらいたいです</p> <p>短い時間でわからなかったこともあると思うので、カカオでどんどん聞いてください。今日はここまでです。ありがとうございました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                          | ディスカッションの準備 |  |

## 【実習生が作成した配布資料】 日本語 B1-1

### 『住まいと住環境』

#### \* 語彙リスト \*

- 間取り・間取り図  
・この家の間取り図はありますか。
- ～LDK  
・私は2LDKの部屋に住みたい。
- 最寄り駅  
・私の家は最寄り駅から徒歩4分だ。
- 木造/鉄筋コンクリート  
・このアパートは木造（鉄筋コンクリート）である。
- 階建ての△階  
・5階建ての3階の部屋に住みたい。
- （南）向き  
・この部屋は南向きである。
- 畳・帖  
・6畳の部屋は狭い。
- 玄関  
・この家の玄関は素敵だ。
- 和室  
・和室は匂いがいい。
- 洋室  
・洋室には椅子とテーブルがある。
- 高層マンション  
・この駅の周辺には高層マンションが多い。

#### \* 文型リスト \*

- ～～なら、～～～。（助言）  
・住むなら、大阪がいいよ。  
・テーブルなら、木のものがいいよ。  
・マンションなら、高さの高いものがいいよ。
- 丁寧語（です・ます）  
①A: その部屋は和室ですか。  
B: いいえ、洋室です。床が畳ではありません。  
②A: 隣の部屋には誰か住んでいますか。

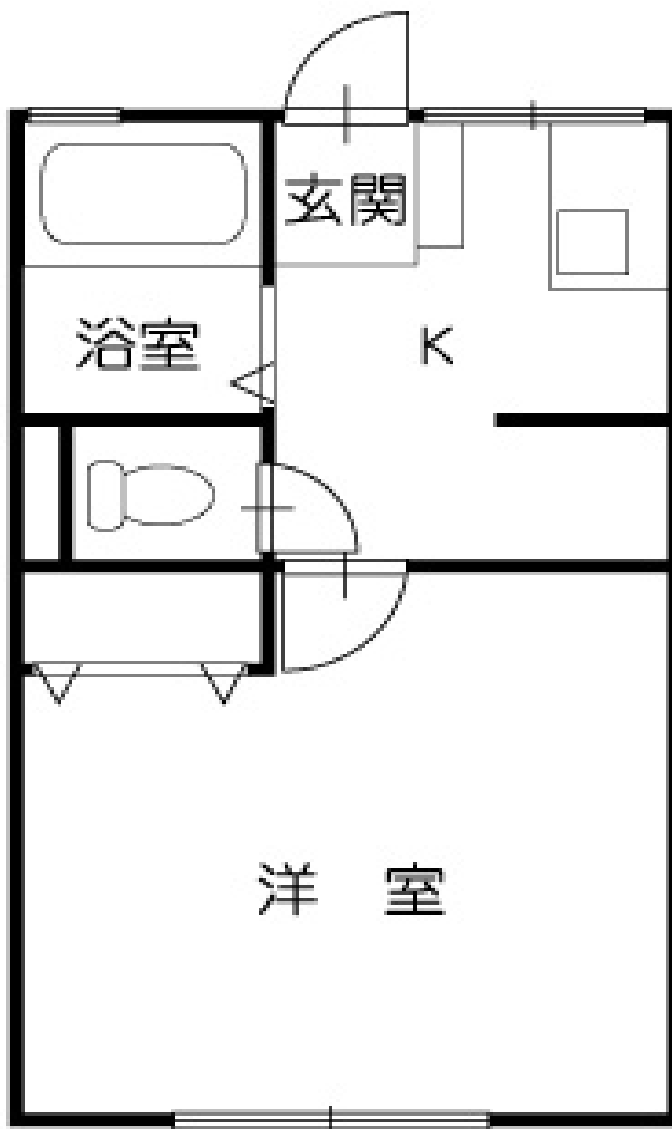


B: はい。<sup>りょうほう</sup> 両方とも人が住んでいます。

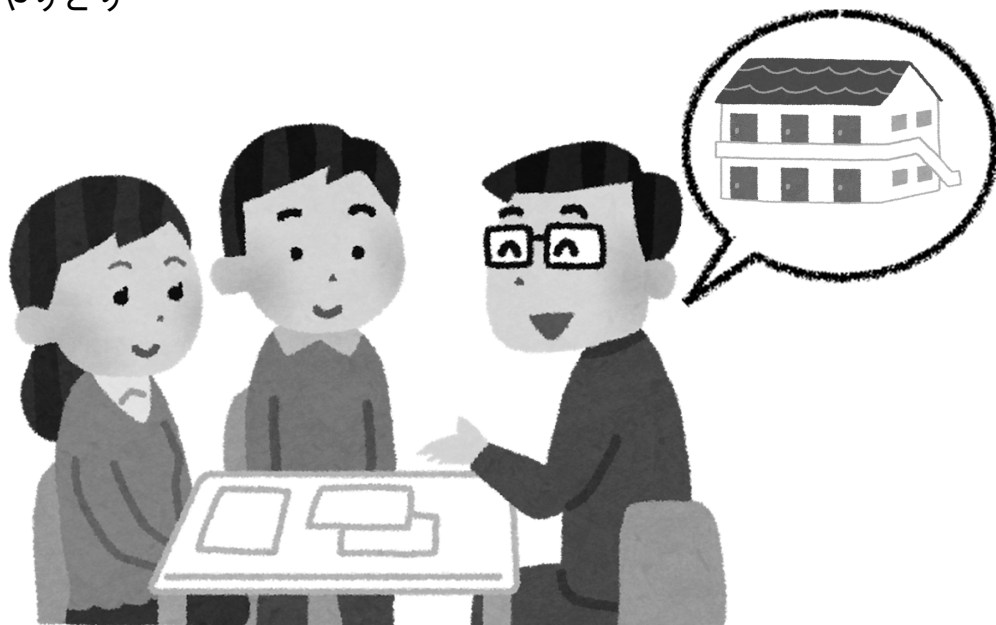
3. 特別な尊敬語<sup>とくべつ そんけいご</sup>

ご覧になる一見<sup>らん み</sup>

他にも…おっしゃる/いらっしゃる/くださる<sup>ほか</sup>



## やりとり



不動産屋さん：いらっしゃいませ。どのような物件を探していますか。

大学生：今、私は大学生で、日本にワーキングホリデーをしに来ています。今のゲストハウスが不便になってきたので、1Kのアパートを探しています。会社はGoogleです。

不動産屋さん：Googleなら、会社の最寄り駅から徒歩5分のところの木造のアパートがいいと思います。その部屋は2階建ての1階の部屋で、南向きなので日当たりも良いです。

大学生：部屋の広さはどのくらいですか。

不動産屋さん：8畳です。風呂とトイレも付いています。

大学生：家賃は月にいくらですか。

不動産屋さん：月に7万円です。

大学生：いいですね。

不動産屋さん：ご覧になりますか。

大学生：はい。お願いします。



~~~~~部屋に着きました~~~~~

不動産屋さん：ここが玄関です。

大学生：靴箱がありますね。

不動産屋さん：玄関を入ったところがキッチンです。

大学生：キッチンの向かい側の部屋はなんですか。

不動産屋さん：そこにはお風呂とトイレがあります。

大学生：なるほど。

不動産屋さん：キッチンの先に部屋があります。

大学生：広い洋室の部屋ですね。

不動産屋さん：日が当たるので暖かいです。

大学生：窓がとても大きくていいですね。ここにします。

ごい ふくしゅうもんだい  
語彙の復習問題

1. 私の祖母の家は木でできているので、（ ）である。  
そぼ
2. （ ）は、畳の香りがしてとても安心する。  
たたみ かお あんしん
3. この家は、2つの部屋とダイニングとキッチンがあるので（ ）だ。  
しょうらい ゆめ かねも
4. 将来の夢はお金持ちになって（ ）の最上階に住むことだ。  
さいじょうかい す
5. この家の（ ）を見たいです。  
いえ み
6. （ ）で靴を脱いで、スリッパを履く。  
くつ ぬ は
7. この家の（ ）は、大阪駅である。  
いえ おおさかえき
8. （ ）の洋室はとても広い。  
ようしつ ひろ

Word Box

|      |      |     |         |
|------|------|-----|---------|
| 最寄り駅 | 2DK  | 和室  | 玄関      |
| 木造   | 間取り図 | 30帖 | 高層マンション |

ふくしゅうもんだい  
文型の復習問題

ぼうせん ぶぶん とくべつ そんけいご  
次の文の傍線の部分を特別な尊敬語を使って書き換えましょう。

- きょうかしょ  
1. 先生が教科書を見る。→  
がっこう
2. 先生は午後、学校に来る。→  
れんらくじこう
3. 先生が、私に連絡事項を言う。→  
じよげん
- 『～～なら、～～～～。』の助言の文を作ってみましょう。
1.  
2.

復習プリントの解答

語彙 1. 木造 2. 和室 3. 2DK 4. 高層マンション 5. 間取り図 6. 玄関 7. 最寄り駅 8. 30帖

文型

文型リストの例文参照。

もし、チェックして欲しかったら、金曜日までに私にください。

## B1-2 トピック2 「住まいと住環境」

### 【理解】

今住んでいる家や自分の部屋の改善点について、読んだり聞いたりして理解できる。



### 【やりとり】

今住んでいる家や自分の部屋について、複数の例をあげたりエピソードを交えながらやりとりができる。

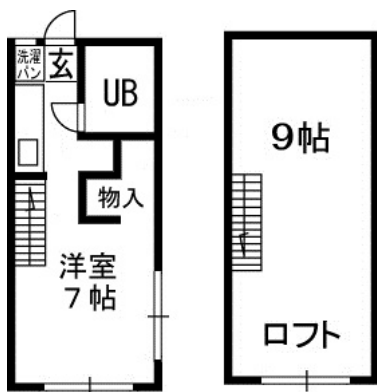
### 【表現】

今住んでいる家や自分の部屋について、複数の例をあげたりエピソードを交えながら表現できる。

住まいに関（かん）する単語を日本語で書いてみましょう。

| 建物や部屋の名前  | 家具や電気製品の名前  |
|---|---|
|  |  |

課題1 間取り図（まどりず）を読んでみましょう。【理解】

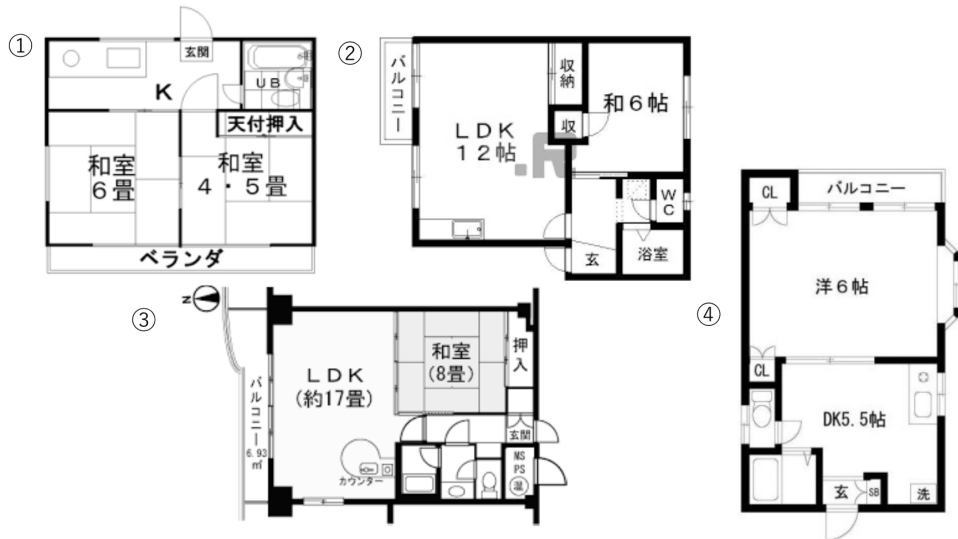


玄関：  
 物入：  
 ユニットバス（UB）：  
 ロフト：  
 帖／畳：



課題2 文章を聞いてグループで話し合しましょう。【聞き取り】

1. これからAさんはどのゲストハウスに泊まるでしょうか。



2. ゲストハウスの注意事項 (ちゅういじこう) は何ですか。

3. あなたがこのゲストハウスに泊まる時、他に知っておきたい情報はありますか。

課題3 あなたの家に、韓国に留学している日本人の友達がホームステイをしにきました。最初に家の中を案内してあげましょう。その時、いっしょに注意事項も説明しましょう。【表現】

| 間取り図 |
|------|
|      |

| 部屋の紹介（しょうかい）・注意点（ちゅういてん） |
|--------------------------|
|                          |

名前： \_\_\_\_\_



課題4 住まいについて隣の人と会話をしましょう。【やりとり】

1-1 あなたが住んでいる部屋はどんな部屋ですか？不便（ふべん）なことや、不満（ふまん）なことはありますか？

1-2 もし今度（こんど）引っ越す（ひっこす）としたらどんな部屋がいいですか？

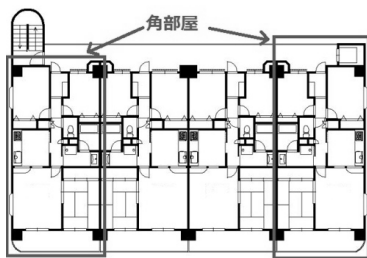
2 家や部屋の改善点についての表現を確認しましょう。

課題5 物件情報（ぶっけんじょうほう）の用語を確認しましょう。【理解】

角部屋・南向きの部屋の特徴（とくちょう）についてメモを取りましょう。

|             |                          |
|-------------|--------------------------|
| <b>賃貸条件</b> | 資料:月額 68,000円 管理費 2,000円 |
|             | 敷金: 1ヵ月 礼金: ナシ           |
| <b>建 物</b>  | 賃貸借の種類:普通賃貸借 賃貸借期間: 2年間  |
|             | 入居日: 即 更新料:新賃料の 1 ヶ月分    |
| <b>設 備</b>  | 建物構造: 木造2階建て2階部分         |
|             | 建築年月: 昭和62年4月 総戸数: 8戸    |
|             | 専有面積: 25.92㎡             |
|             | 方 位: 東向き 間取: 1DK         |
| <b>設 備</b>  | 電 気: 東京電力 ガス:東京ガス        |
|             | 飲用水 : 都市ガス 排水:本下水        |
|             | エアコン: 1基                 |
|             | 浴 室: 有り<br>バランス釜:新品      |

敷金：  
礼金・保証金：  
管理費：  
木造：  
鉄骨：  
徒歩：  
最寄駅：



角部屋の特徴



南向きの部屋の特徴

課題5 PPTを見て日本の大学生の住まいについて特徴をまとめましょう。

【理解】

大学寮

学生会館

アパート・マンション

シェアハウス

課題6 ダイアログをつくりましょう。【表現】

Aさんは、来年から日本の大学に留学することが決まりました。大学には寮がないため、部屋を探さなければいけません。条件を理解し適切な住まいを提案してください。

1. 人物の写真を見て、Aさんがどんな人物なのかを自由に決めて、Aさんの部屋の条件を決めましょう。

2. 1 で決めた条件を伝える Aさんと住まいを提案する Bさんの会話文をつくりました。

Aさんの性格

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

○表現

【条件】い形容詞+ければ、～。

例) 家賃を安くしたければ、大学寮がいいと思います。

【提案】動詞・名詞+なら、～～。

例) シェアハウスなら、友達もたくさんできると思いますよ。

## からだと健康

目標(理解)：ドラッグストアにある商品の説明などを読んで理解したり、商品名から何に使うものかを想像したりすることができる。

場面：あなたは二泊三日の旅行で東京に行きます。両親と大学の友達に日本の薬品や日用品を買ってきて欲しいと言われました。友達と新宿のドラッグストアに行き、頼まれた商品を買います。

### 〈語彙リスト〉

|           |                   |               |               |               |                |                 |            |
|-----------|-------------------|---------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|------------|
| ドラッグストア   | いやくぶがいひん<br>医薬部外品 | にちようひん<br>日用品 | ずつうやく<br>頭痛薬  | べんびやく<br>便秘薬  | めぐすり<br>目薬     | サポーター           |            |
| しっが<br>湿布 | なんこう<br>軟膏        | せんがん<br>洗顔    | ほうこうざい<br>芳香剤 | じょしつざい<br>除湿剤 | じゅうなんざい<br>柔軟剤 | しょくひん<br>レトルト食品 | だがし<br>駄菓子 |

### 〈表現リスト〉

- ・一番よく効くものはなんですか
- ・ばら売り／まとめ売りのものはありますか。
- ・～を ～〈辞書形〉べき／べきだ／べきではない
- ・～ 〈受身形〉 のですが…
- 例) 傷口を消毒するべきだ
- 例) 蚊に刺されたのですが…
- ・税込みですか／税抜きですか／免税対象になりますか。
- ・目薬をさす／湿布を貼る／軟膏・湿布をぬる／芳香剤・除湿剤を置く

### 〈書いてみましょう〉

1. 昨日久しぶりに運動をしたら筋肉痛になりました。何を使えばよいのか聞いてください。  
\_\_\_\_\_
2. あなたは高価な化粧品を買いたいと思っています。税金を払うか否かを聞きたいです。  
\_\_\_\_\_
3. コンタクトレンズを長時間着けていたため、ドライアイになりました。どうすればよいですか。  
\_\_\_\_\_
4. お土産で駄菓子をばらまきたいと思っています。店員さんになんと聞けばよいですか。  
\_\_\_\_\_

・見てみましょう

〈実際にドラッグストアに売られている商品の説明書〉

商品名：バファリンA

商品情報：解熱鎮痛薬・頭痛薬

〈効能〉

- (1) 頭痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・打撲痛
- (2) 悪寒・発熱時の解熱

〈使用上の注意〉

次の人は服用しないでください

- (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
- (3) 15才未満の小児。

〈用法・用途〉

なるべく空腹時を避けて服用してください。服用間隔は6時間以上おいてください。

次の量を水またはぬるま湯にて服用してください。

|        |           |         |
|--------|-----------|---------|
| 年齢     | 成人（15才以上） | 15才未満   |
| 1回量    | 2錠        | 服用しないこと |
| 1日服用回数 | 2回を限度とする  |         |

商品名：新ビオフェルミンS

商品情報：腹痛薬、便秘薬

〈効能〉

整腸（便通を整える）、軟便、便秘、腹部膨満感

〈使用上の注意〉

- (1) 医師の治療を受けている人は服用まえに医師または薬剤師に相談すること。
- (2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。
- (3) 用法・用量を厳守すること。
- (4) のどにつかえるといけないので、5歳未満の幼児には服用させないこと。

〈用法・用量〉

|        |         |        |
|--------|---------|--------|
| 年齢     | 1回量     | 1日服用回数 |
| 15歳以上  | 3錠      | 3回     |
| 5歳～14歳 | 2錠      |        |
| 5歳未満   | 服用しないこと |        |

## ワークシート

## 1. 語彙・表現

下のリストの a～g から適するものを選んでください。

- (1) 熱冷ましともいわれ、解熱作用と鎮痛作用を兼ね備えた薬物 ( )  
ねつざい げねつさよう ちんつうさよう か そな やくぶつ
- (2) 発作性の呼吸困難、咳を繰り返す病気。夜間から明け方にかけて起こることが多い ( )  
ほっさせい こきゅうこんなん せき く かえ びょうき
- (3) 医薬品に関するスペシャリスト。病気やケガを治すために薬を調合したり研究する人 ( )  
いやくひん ちようごう けんきゆう
- (4) 体の部位で、ふさがった感じになる ( )
- (5) 発熱の初めなどを感じる、不快な寒気 ( )  
ふかい さむけ
- (6) 繊維製品にやわらかな感触をあたえるために使われる薬剤 ( )  
せんいせいひん かんしよく やくざい
- (7) 医薬品ではないが、薬効が認められる成分を含む。人体に対する作用がゆるやかなもの ( )  
やくこう さよう

- |         |          |         |          |
|---------|----------|---------|----------|
| a. 柔軟剤  | b. 薬剤師   | c. ぜんそく | d. 医薬部外品 |
| e. つかえる | f. 解熱鎮痛剤 | g. 悪寒   |          |

## 2. 内容理解

〈実際にドラッグストアに売られている商品の説明書〉を読んで、正しいものには T、間違っているものには F を選んでください。

- (1) 新バイオフェルミン S は頭痛がひどいときに飲む薬である。 ( T ・ F )  
ずつう
- (2) 小児は新バイオフェルミン S を服用することができる。 ( T ・ F )
- (3) バファリン A は食前に飲むことができる。 ( T ・ F )
- (4) 昨日は寒気がしたのでバファリン A を 3 回服用した。 ( T ・ F )  
さむけ
- (5) ぜんそくの治療を受けているため新バイオフェルミン S を飲む前に医師に相談した。 ( T ・ F )  
ちりよう そうだん

目標(やりとり)：自分の体調や症状についてその詳細を説明したり質問に対して具体的に答えられる。

場面：あなたは語学研修で日本に3週間過ごすことになりました。学校の友達とランチでお寿司の食べ放題に行きました。その日の夜、お腹を壊し、気分が悪くなったので、ホストファミリーに症状を説明しようと思います。

〈語彙リスト〉

|              |               |              |            |        |        |
|--------------|---------------|--------------|------------|--------|--------|
| だるい          | うず<br>疼く      | ねつ<br>熱っぽい   | さむけ<br>寒気  | ズキズキする | ゴロゴロする |
| へんずつう<br>偏頭痛 | いちようえん<br>胃腸炎 | めまい<br>目眩がする | どんつう<br>鈍痛 |        |        |

〈表現リスト〉

痛みを訴える側

- ・～を感じます。
- 例) 痛み／寒気を感じる
- ・～(時間)から～が～です。
- 例) お昼頃から体がだるいです。
- ・違和感があります。
- ・吐きたいです。
- ・横になりたい／横たわりたいです。
- ・薬を飲みたいです。
- ・病院に行きたいです。

聞く側

- ・どのような状態ですか。
- ・具合はどうですか。
- ・どうしたいですか。

〈ロールプレイ〉

目標(表現)：日韓の医療に関する制度やサービスについて比較し自分の意見を述べることができる。

場面：あなたは日本で開催される日韓大学生交流会に参加することになりました。  
交流会のテーマは「日韓医療観光」です。日韓医療観光についての説明を受けて最後にあなたの意見を述べます。

### 【考えてみましょう】

- (1). 医療観光とはなんですか？
- (2). 日本または韓国で既に行われている医療観光を知っていますか？

### 1. 「医療観光」を紹介する動画を見てみましょう。

#### <語彙>

さいせんたん  
最先端いちりゅう  
一流ちようじゆ  
長寿けんこうしんだん  
健康診断そうきはっけん  
早期発見げんちつうやく  
現地通訳いりようせんもんつうやく  
医療専門通訳もんしん  
問診けんさ  
検査ちりよう  
治療しんさつけっか  
診察結果

#### <Q & A>

- (1). 医療観光で日本を訪れる人に付き添う人は何をしてくれる人ですか。

- (2). 空港から病院まではどうやって行きますか。

- (3). 診察が終わった後はどんなことができますか。

- (4). 診察結果が出るまでどのくらいかかりますか。

メモ



4. 「日韓医療観光」についてまとめられている資料を見てください。

〈表現〉

・ Aは～です。一方でBは～です。／Aは～ですが、Bは～です。

例) シンガポールは湿度が高いです。一方でモンゴルは湿度が低いです。

・ AとBは～という点で同じです／～という点で異なります。

例) 韓国料理と日本料理はおいしいという点で同じです。／鉛筆とシャープペンを使いやすさという点で異なります。

・ 優れている／劣っている    ・ 快適／不快    ・ 便利／不便    ・ 盛ん／盛んではない

・ 進んでいる／遅れている    ・ 合理的／非合理的    ・ 望ましい／望ましくない

・ 好ましい／好ましくない

【考えましょう、意見を書いてみましょう】

日本と韓国の医療観光の特徴や相違点、共通点を考えて意見を書いてみましょう。

4. の〈表現〉を使って書いてください。

|    |
|----|
| メモ |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |
|    |

6. 発表しましょう。

上に書いた自分の考え・意見をグループのなかで発表してください。

## &lt;日韓医療観光&gt;

アジアを中心に近年、医療観光が注目されている。特に韓国においては、観光地が豊富で、医療技術とサービス水準が高いため、医療観光が盛んである。日本では経済の成長戦略の一つとして医療観光が進められている。しかし、日本においてはあまり普及しているとは言えない。

## 【日本の医療観光】

- ・日本では、2009年に政府の経済の成長戦略として進められた。
- ・患者数は、2012年で約3万人である。
- ・2020年時点で年間43万人ほどの需要が潜在的にあるとみられている。
- ・治療分野は、がん治療、人間ドックなどである
- ・医療ビザを新たにつくこと、海外に向けて情報を発信すること、医療通訳者を育てることが課題だ。

## 【韓国の医療観光】

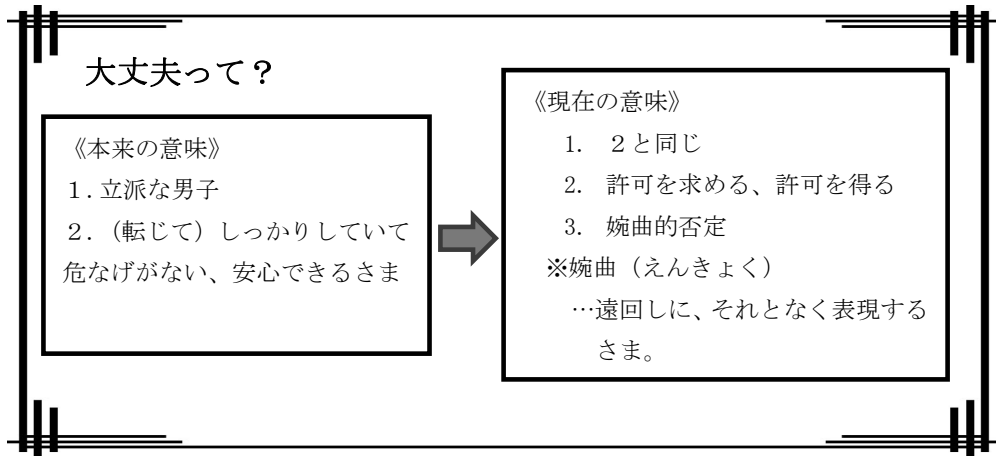
- ・韓国の医療観光が本格化したのは2009年が始まりで、外国人患者を誘致することに力を入れた。
- ・患者数は2009年に約8千人だったが、2011年には約12万人となった。
- ・2020年には外国人の医療観光受け入れ50万人を目指している。
- ・主な治療分野は、美容整形、がん治療などである。
- ・医療観光が都市部だけに集中しており、内陸地域活性化のための観光事業が課題となっている。

参考：DBJヘルスケア産業の新潮流 ⑧<進む国際化・医療ツーリズムの動向>、中央大学、医療観光における日韓比較

## &lt;語彙・表現リスト&gt;

豊富 水準が高い 盛ん 成長戦略 普及する 患者 需要 潜在的  
 課題 本格化 誘致する 美容整形 がん 都市部 地域活性化 事業

～曖昧（あいまい）な表現と言葉～



ワーク 1 仲の良い先輩から映画を見に行こうと誘われました。しかし、あなたはその映画には興味がありません。先輩に不快な思いをさせないように断るにはどんな表現を使えばよいのでしょうか？

[ ]

ワーク 2 なぜ日本人は曖昧な表現を使うのか、以下の文章を読んで抜粋、要約して3点にまとめてみましょう。

集団の中では、日本人はなによりも「和」を重んじているので、周囲の人や、話の相手には悪い、相手を傷つける、困らせる、相手に恥をかかせる……といった言語行動を極力避けているのである。このいたわりを美德として**びとく**している日本人だから、「争わない」「遠慮**えんりょ**する」ことが多い。また、当然のように、「かどが立つ」ことを悪徳**あくとく**と考えている。(中略)つまり、日本人は意識して、直接から間接へ、直接から婉曲へと話を持っていき、物事をわざと曖昧に表現して、どぎつさを回避**かいひ**する表現方法をとっていると思う。

そして、日本人の伝統的な文化は「察し」の文化であり、言葉のやり取りを少なくしようとする文化であって、自分の行動の基準を他者の心**けいこう**に求める傾向にある。自己主張をするにしても、相手の感情をいたわりながら、やわらかく言い分を通すのが最善だと考えている。だから、なるべく相手に嫌われないように、うらまれないように、と常に配慮**けいりょ**をしている。

楊曉鐘 曹瑤紅 (2005:p. 47) 「曖昧な日本語を再認識-日本語教育の立場から-」 福井大学教育地域科学部紀要 I(人文科学 国語学・国文学・中国学編), 56

- (1)日本人は ( ) ので、相手に迷惑をかけることを避ける  
(2)日本人は ( ) を悪徳と考えているので、  
( ) 表現方法をとる  
(3)日本人の文化は( )の文化なので、自分の行動の基準を( )  
傾向にある

ワーク 3 日常の場面では気にならない言葉の表現も、ビジネスでは大きな問題になります。

外国人との交渉<sup>こうしょう</sup>する場面が増えてきたことで、日本では曖昧な表現をめぐって様々な意見が出されています。

皆さんはビジネスでのコミュニケーションにおいて

(1)自分の意見を主張し、厳しいことも率直<sup>そつちよく</sup>に言う

(2)相手の意見や気持ちを配慮して、曖昧な表現を使う

どちらがより良いと思いますか？その理由も教えてください。(9/14までに)

---

---

---

---

---

---

---

(例) 自分の意見を主張するとき  
はっきりとした表現

「私は〇〇の意見には賛同できません。現状ではデメリットが多すぎます。」

曖昧な表現

「いいと思うんですが、現状ではちょっと厳しいかもしれません」


# 【第1回日韓学生フォーラムハンドアウト】

동아시아 공동체와 내셔널리즘을 극복한 글로벌한 관점

東アジア共同体とナショナリズムを克服したグローバルな観点

お茶の水女子大学 森山新  
MORIYAMA, Shin (Ochanomizu University)

## Introduction (배경)



- 세계일주  
世界一周
- 이웃나라 한국: 매력과 과거사  
隣国韓国: 魅力と過去史
- 일본어교사로서 한국으로  
日本語教師として韓国に
  - 대학원 (석사/박사)  
大学院
  - 과거를 극복할 노력  
過去を克服する努力

## 글로벌인재란...

グローバル人材とは?

일본 (한국도?) 정부가 말하는 글로벌인재:  
日本 (韓国も?) 政府が言うグローバル人材

- 영어를 잘하고  
英語が上手で
- 적극적으로 세계에 나서고 활약하고  
積極的に世界に出て活躍して
- 우리나라 위상을 높이고  
我が国の位相を高め
- 등등...

> 아시아공동체 형성, 세계 평화?  
> アジア共同体形成、世界平和?

## 동아시아, 그리고 세계가 함께 살기 위해

東アジア、世界がともに生きるために

- 근년 한일, 중일 관계가 악화  
近年、日韓、日中関係が悪化
- (현재) 정치가 어떻게든 할 수 없는 상황  
政治ではどうにもならない状況
- 교육자, 학생으로서 할 수 있는 것: 교육실천을 통해  
教育者、学生としてできることはないか: 教育実践を通して
  - ①한일 대학생 국제교류 세미나
  - ②국제 학생 포럼
  - ③다문화, 다언어 사이버 컨소시엄

## 동아시아, 그리고 세계가 함께 살기 위해

東アジア、世界がともに生きるために

- 국제교류형 수업  
国際交流型授業
- 나라, 언어, 문화를 초월하여 일상적인 대화  
国家、言語、文化を超えて日常的に対話
- 언어 Skill > 이문화이해 > Identity > Global 인재육성  
言語スキル > 異文化理解 > アイデンティティ > グローバル人材育成
- Global시대에 요구되는 외국어교육  
グローバル時代に求められる外国語教育
- 나의 실천 + 유럽에서 배울 수 있는 것  
私自身の実践 + ヨーロッパから学ぶこと

## 유럽에서 배운다

ヨーロッパから学ぶ

- 유럽: 두번의 세계대전의 교훈. 다시 이러한 비극을 되풀이 하지 않겠다!  
ヨーロッパ: 二度の世界大戦の教訓。二度このような悲劇は繰り返さな
- 국제기구: EU (유럽연합)  
国際機構: EU (欧州連合)
- 교육정책: Council of Europe (유럽협의회)  
教育政策: Council of Europe
- 복수언어, 복수문화 교육  
複言語・複文化教育
- Citizenship 교육  
シチズンシップ教育



## 국민교육

国民教育

- 근대국가가 성립과 함께 태어나, 식민지화의 흐름에 따라 세계에 수출되었다  
近代国家成立とともに生まれ、植民地化の流れに乗って世界に輸出
- 국가가 국가의 유지, 발전을 위해, 국민에게 필요한 자질, 능력을 육성  
国家が国家の維持、発展のために国民に必要な資質、能力を育成
- 학교교육 (의무교육) : 국어, 지리, 역사, 문화, 습관, 국기 등  
学校教育(義務教育) : 国語・地理・歴史・文化・習慣・国旗など
- 인간자본으로서 국민육성, Nationalism 확립  
人間資本として国民を育成、ナショナリズムを確立

## 국민교육: 그 폐해와 재고

国民教育：その弊害と再考

- 지난 세기: 이민들은 소수, 통합, 동화의 대상으로 무시, 경시  
前世紀：移民などは少数、統合、同化の対象として無視、軽視
- 금세기: Global화에 따른 내외 양면의 변화  
今世紀：グローバル化による内外両面の変化
  - ① 국내: 이민 등 증가 > 문화적 갈등, 경제적 차  
国内：移民などの増加 > 文化的葛藤、経済格差
  - ② 국가간: 관계 긴밀화와 대립 격화  
国家間：関係緊密化と対立激化
- 국민교육에서 Citizenship교육으로  
国民教育からシティズンシップ教育へ

## Citizenship교육


シティズンシップ教育

- 국민교육을 전제로 하는 민주주의의 위기  
国民教育を前提とする民主主義の危機
- 유럽의 대책: Citizenship교육  
ヨーロッパの対策：シティズンシップ教育
- ① 국민 : 마이노리티(소수자) 배제  
国民：マイノリティ（少数者）排除
  - > 시민 : 마이노리티 포섭  
> 市民：マイノリティ包摂
- ② National identity에 의한 국가간의 대립  
ナショナルアイデンティティによる国家間の対立
  - > International identity에 의한 국가간의 공생  
> インターナショナルアイデンティティによる国家間の共生

## 일본의 경우

日本の場合

- 국민교육 : 국내의 다양화, 다문화화에 대응 못함  
国民教育：国内の多様化、多文化化に対応できず
- 예) 외국인 실질 배제  
例) 外国人の実質排除
- 국익 우선, 국가간 대립 조장  
国益優先、国家間対立助長



## 유럽과 동아시아 그 차이

ヨーロッパと東アジアとの違い

- 민족교육적 국민교육  
民族教育的な国民教育
- cf. demos (사회계약) vs. ethnos (혈연, 민족)  
cf. demos (社会契約) vs. ethnos (血縁、民族)
- 일본의 경우: 일본국 헌법 제정시 기본적 인권의 대상인 demos적 "인민"을 ethnos적 "국민"으로  
日本の場合：日本国憲法制定時、基本的人権の対象のdemos的人民をethnos的国民に
- > 혈연이 없는 외국인인 실질적으로 배제되었음  
> 血縁がない外国人は実質的に排除された

## 유럽과 동아시아 그 차이

ヨーロッパと東アジアとの違い

- 역사를 진지하게 보고, 전쟁을 다시 일으키지 않겠다는 깊은 반성  
歴史を真摯に見つめ、戦争を二度と起こさないという深い反省
- 정치면: 국제기구 (EU) 를 설립, International한 시점에서 정책을 실행하고 있음  
政治面：国際機構を設立、国際的視点から政策を実行している
- 교육면: International, intercultural한 언어교육 정책을 생각하고, 실행하고 있음  
教育面：国家・文化を超えた言語教育政策を考え実行する

## 유럽의 언어교육정책

ヨーロッパの言語教育政策

- 복수언어 · 복수문화주의 (가맹국의 언어 · 문화를 배움)
    - 複言語・複文化主義 (加盟国の言語・文化を学ぶ)
    - 1995년 3언어정책 (모어+2개 외국어)
    - 1995年 3言語政策 (母語+2つの外国語)
  - > 개인 속에 복수 언어 능력이 단일한 능력으로 공존
    - 個人の中に複言語能力が単一の能力として共存
  - 단언어 · 단문화 : Nationalism
    - 単言語・単文化：ナショナリズム
  - 복수언어 · 복수문화 : Internationalism
    - 複言語・複文化：インターナショナリズム
- cf. 단언어 · 단문화주의  
Cf. 多言語・多文化主義

## 유럽의 언어교육정책

ヨーロッパの言語教育政策

- 복수언어 · 복수문화주의
  - 複言語・複文化主義
  - (Plurilingualism/Pluriculturalism)
- ① 교류, 이동을 활발하게 한다. 개인에게도 혜택
  - ①交流、移動を活発化し、個人にもメリット
- ② 모든 언어, 문화가 대등한 것을 배운다
  - ②全ての言語、文化が対等であることを学ぶ
- ③ 유럽인으로서의 Identity를 확립시킨다
  - ③ヨーロッパ人としてのアイデンティティを確立させる

## 사회화와 언어교육

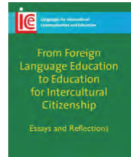
社会化と言語教育

- 제1차, 제2차 사회화: 모어 / 모국어 교육
    - 第1次、第2次社会化：母語/母国語教育
    - > national identity 확립, 강화
    - > ナショナルアイデンティティの確立、強化
  - 제3차 사회화: 외국어교육 (Byram)
    - 第3次社会化：外国語教育 (Byram)
- ① 외국어를 배움으로, 지금까지 자신이 당연하다고 생각한 것을 상대화시킨다
- ①外国語を学ぶことでそれまで自身が当然だと考えてきたことを相対化する
  - ② 자신과 타자에 대한 Critical한 깨달음을 일으킨다
  - ②自身と他者に対するクリティカルな気づきを引き起こす
  - ③ International identity 육성에 공헌
  - ③インターナショナルアイデンティティ育成に貢献

## Intercultural Citizenship교육으로서의 외국어교육

文化を超えたシティズンシップ教育としての外国語教育

- Michael Byram (2008)
- 외국어 스킬을 배우는 것 뿐 아니라 (외국어를 사용하고) 문화, 정치를 적극적으로 다룬다
  - 外国語スキルを学ぶだけでなく、(外国語を用いて)文化、政治を積極的に扱う
- National identity나 가치관을 Critical하게 보고, 그것들을 초월해 International identity를 키운다
  - ナショナルアイデンティティや価値観をクリティカルに見つめ、それらを超えインターナショナルアイデンティティを育成



## 외국어 교육의 힘

外国語教育の力

- 이것이 사실이라면, 동아시아가 Nationalism의 벽을 넘어, 공존하기 위해 큰 힘이 될 수 있다
  - これが事実なら、東アジアがナショナリズムの壁を超え、共存するために大きな力に
- ① 한일 대학생 국제교류 세미나
- ② 국제 학생 포럼
- ③ 다문화, 단언어 사이버 컨소시엄

## 한일 대학생 국제교류 세미나 (2004~)

日韓大学生国際交流セミナー



## 한일 대학생 국제교류 세미나 (2004~)

- ▣ 4월~7월: TV회의 시스템을 사용, 원격교류  
4~7月: テレビ会議システムを用いて遠隔教育
- ▣ 8월: 합숙, 홈스테이, 합동세미나  
8月: 合宿、ホームステイ 合同セミナー
- ▣ 감히 Taboo를 다룬다 (정치, 역사 등)  
あえてタブーを扱う (政治、歴史など)

> 같은 장소에 있으며, 대화와 협조를 실천  
(塩原2012、森山2013)

> 居場所を共有し対話と協調を実践

- ▣ 자기 문화 중심주의 > 문화 상대 주의 > Intercultural Citizenship  
自文化中心主義>文化相対主義>文化を超えたシティズンシップ



## 다른 주제

扱ったテーマ

- ▣ 한일 보도 실태와 방안, 교류의 의의 (2012, 2016)  
日韓の報道の実態と方針、交流の意義
- ▣ 역사 교육 (2012, 2016)  
歴史教育
- ▣ 위안부 문제 (2012)  
慰安婦問題
- ▣ 일본인과 한국인의 공생 (2013, 2016)  
日本人と韓国人の共生
- ▣ 한일 역사인식 (2013, 2015)  
日韓の歴史認識
- ▣ 반일, 혐한 (2015)  
反日、嫌韓
- ▣ 광복70년 (2015)  
戦後70年

## 국제 학생 포럼 (2012~)

国際学生フォーラム

## 다문화·다언어 사이버 컨소시엄

多文化・多言語サイバーコンソーシアム

## 광복70년을 맞이하여

戦後70年を迎えて

- ▣ 아베 총리는 전후 50년인 1995년에 발표된 “무라야마 담화”를 대신할 수 있는 새로운 담화를 발표  
安倍首相は戦後50年の村山談話に代わる新しい談話を発表
- ▣ 동아시아 각국에서도 새로운 성명을 발표  
東アジア各国でも新たな声明を発表
- ▣ 이것들이 동아시아의 국제관계 개선을 이룰 수 있을까?  
これらが東アジアの国際関係を改善できるか?
- ▣ 지금까지의 언어교육을 넘어, 복수언어·복수문화교육, Citizenship 교육 > 동아시아에 평화와 공생을 일으킬 수 있는 계기를 만들고 싶다  
これまでの言語教育を超え、複言語・複文化教育、シティズンシップ教育> 東アジアに平和と共生をもたらす契機を作りたい



## 전후 70년 : 중국과 일본의 대화

戦後70年：日中の対話



## 전후 70년 : 중국과 일본의 대화

戦後70年：日中の対話

- < 일본, 오차대 >
- ▣ 역사교육  
歴史教育
- ▣ 일본, 중국에 대한 이미지  
日本、中国に対するイメージ
- < 중국, 大連理工大 >
- ▣ Stereotype
- ▣ 마스크 보도  
マスク報道
- ▣ 이문화이해 등  
異文化理解 など

## 전후 70년 : 한국과 일본의 대화

戦後70年：日韓の対話




## 전후 70년 : 한국과 일본의 대화

戦後70年：日韓の対話

- < 일본, 오차대 >
- ▣ 전후 처리, 배상문제  
戦後処理、賠償問題
- ▣ 영토 문제  
領土問題
- < 부산외대 >
- ▣ 위안부 문제  
慰安婦問題
- ▣ 한일 관계 (전후 일본총리 담화)  
日韓関係 (戦後の日本首相の談話)

## 전후 70년 : 한국/중국과 일본의 대화

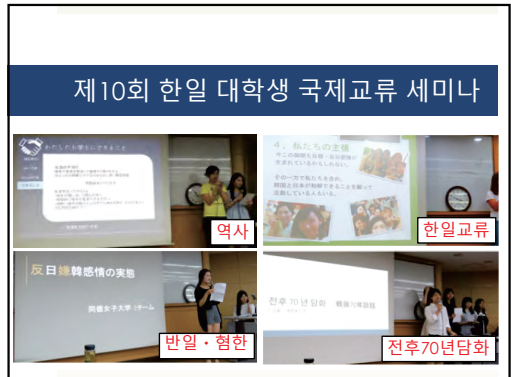


## 수업에서 다른 주제

授業で扱った内容

- ▣ 2016 한일 공통 교과서 日韓共通教科書
- ▣ 2017 개인/국가간의 Conflict 個人/国家間のコンフリクト
- ▣ 2017 동아시아가 함께 살기 위해 東アジアがともに生きるために



## Intercultural Citizenship 교육의 필요성

文化を超えたシティズンシップ教育の必要性

- Byram (2008)
  - (1) 언어 > 문화 > 정치  
(1) 言語 > 文化 > 政治
  - (2) 지식 · 태도 · 행동  
(2) 知識 · 態度 · 行動
  - (3) Taboo 문제를 다룬다  
(3) タブーな問題を扱う

## Intercultural Citizenship 교육의 필요성

文化を超えたシティズンシップ教育の必要性

- 언어교육: 다른 언어/문화 이해를 넘어, 다른 언어/문화 사람들과 공생하는 길을 모색한다  
言語教育: 他言語・文化理解を超え、他の言語・文化の人たちと共生する道を模索
- 정치교육: 인간의 보편적인 가치, 민주주의 원칙 존중, 대립을 화해로  
政治教育: 人間の普遍的な価値、民主主義の原則の尊重、対立を和解に

| Intercultural Citizenship 교육의 필요성  |   |
|--|---|
| 언어 교육 言語教育   | 정치교육 政治教育   |
| -National > Int'l Identity<br>-자타를 대등하게 봄<br><small>自他を対等にみる</small><br>-자신의 가치관을 보류,<br><small>自身の価値観を保留</small><br>타자의 가치관에 관심과<br><small>他者の価値観に関心と</small><br>친근감을 가짐<br><small>親近感を持つ</small><br>-명확한 기준과 정확한<br><small>明確な基準と正確な</small><br>지식에 따른 critical한 태도<br><small>知識によるクリティカルな態度</small> | -개 개인의 가치, 존엄에 경의<br><small>個々人の価値、尊厳に敬意</small><br>-법을 의한 통치<br><small>法の支配</small><br>-평등을 추구<br><small>平等の追求</small><br>-다원적 공존과 다른 문화에 경의<br><small>多元的共存と他文化への敬意</small><br>-자국의 발전 > 인류의 발전<br><small>自国の発展&gt; 人類の発展</small><br>-교류, 협력, 신뢰관계<br><small>交流、協力、信頼関係</small><br>-차별, 편견, 대립, 폭력 결별<br><small>差別、偏見、対立、暴力との決別</small> |

## 한국과 일본이 함께 살기 위해

日本と韓国がともに生きるために

- 이 수업에서,  
この授業で
- 한일 학생이 한 자리에 모여,  
日韓の学生が集い
- 서로를 존중하면서,  
互いを尊重しつつ
- 한일이 함께 살기 위한 첫 걸음을...  
ともに生きるための第一歩を

## 参考文献

- Byram, M.(2008), From Foreign Language Education to Education for International Citizenship, Multilingual Matters.
- 近藤孝弘 (2013) 『統合ヨーロッパの市民性教育』、名古屋大学出版会
- 塩原良和 (2012) 『共に生きる-多民族・多文化社会における対話』、弘文堂
- 森山新 (2013) 「グローバル時代の日本語教育・異文化理解教育」, 『日本語文学』 60, 137-154
- 森山新他編 (2016) 『第二言語としての日本語習得研究の展望』 ココ出版 (15章)



## 【実習報告ハンドアウト】

부산외국어대학교 한국어단기연수&일본어교육실습  
釜山外国語大学校 韓国語短期研修&日本語教育実習



2017年度日本語教育実習  
お茶の水女子大学・京都外国語大学

2017.8.7～2017.9.16  
 日本文1年 近澤里奈 山田聖実  
 グローバル文2年 高橋恵里 山口未来  
 グローバル文3年 キイスリ 山田美奈  
 日本語教育コース1年 アヤ・ザグレル 和田夏海



### 釜山外国語大学


- ・1981年 設立
- ・釜山広域市に位置する私立大学
- ・学生数 9,933人（2014年）
- ・国際社会に必要な人材を育成するために設立された外国語中心の総合大学
- ・2014年 南山洞に新キャンパス完工




### キャンパスの様子




### 学部・学科



### 英日中大学 日本語創意融合学部



↓

|               |              |
|---------------|--------------|
| 日本語文化コンテンツ    | 日本語IT        |
| MICE(産業)翻訳日本語 | ホテル観光ビジネス日本語 |



### 韓国語講座(8月8日～8月25日)

- ・8月8日 レベルテスト→クラス分け(春・夏・秋・冬)

## 授業風景

- 9:00~12:50(2コマ) 韓国語授業



## 韓国文化体験

- 8月11日  
釜山ロックフェスティバル



## 韓服体験(8/12)@安楽書院



## 韓国文化体験

- 8月16日・17日 K-POP体験

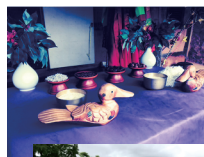


## 韓国文化体験

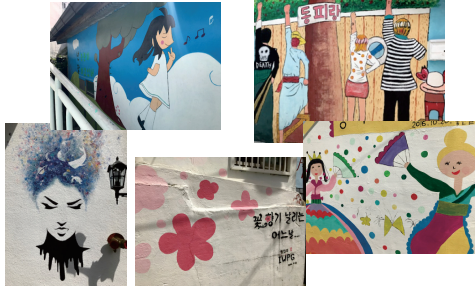
- 8月19日 韓国料理体験



## 1日目: 樂安邑城



## 2日目:トンピラン壁画村



## 2日目:風の丘



## 初めて会った日



ソルビン!!!!

## みんなで海岸沿いに!



## Rock Festival



このあと水浸しに・・・

なんと!!!!

## ミッション



board gameカフェ  
↓  
ケーキ作り  
↓  
サムギョプサル  
↓  
カラオケ  
↓  
Busan tower

空港まで・・・



## ソウル

\* 8月27日～8月29日

\* 釜山からKTXで約2時間半

\* 明洞、新村、カロスキル、南大門、東大門などが観光地として有名

\* 地下鉄での移動



## 日本語教育実習 (9/2～9/15)

◆一週目: 授業見学

授業の流れやクラスのレベル、Can-doの導入の仕方を確認

◆二週目: 教育実習

50分×2コマを週2回担当

◆日韓学生フォーラム

## 授業準備

◆教案・パワーポイント・プリント・漢字テストを準備

◆担当トピック「住まいと住環境」

他に「自分と身近な人々」「からだと健康」

◆50分×2コマを週2回担当



## 家・部屋の改善点

かいぜんてん



あれ、どこに行っただろう??

ない!



授業風景・クラス写真



日韓学生フォーラム

◆東アジアが共に生きるために

・互いの国のイメージ・歴史認識・軍隊・日韓のこれからについて対話

→自分の国の主張だけでなく、相手の意見に耳を傾ける

・メディアを通さない直接交流の重要性を実感



韓国の食事

- 大皿に数人分がまとめられているものが多い
- 器を持ち上げて食べない
- 辛いもの・味が濃いものが多い
- お箸とスプーンで食べる
- キムチは店によって味が異なる
- 飲食店ではおかずのおかわりが自由
- 料理は食堂、デザートはカフェで
- 寮での食事はこんな感じ→→→→



左上:チムタク  
右上:テジックパ  
左下:キムチチゲ  
右下:ポッサム



サムゲタン



おかゆ



ビビンバ



韓国のスイーツ



日本とあまり変わらない印象







## 日本語教育実習事前学習で求められること

佐々木馨（お茶の水女子大学・大学院生）

筆者は「複言語・複文化プログラム」の中の日本語教育実習について渡航前の事前学習を3回担当し、実習最終週に教壇実習および前後の指導に同席させていただいた。本報告ではまず今年度の事前学習で取り扱った内容を報告し、それから釜山外国語大学での実習指導の見学、及び指導教員・実習参加者からの意見からみえたこと、それらを踏まえ次回以降の事前学習で求められることについて述べる。

### 1. 今年度の事前学習で取り扱った内容

「複言語・複文化プログラム」の中で行われる日本語教育実習について事前に考えられた特徴は以下の3点である。

- ① 実習受け入れ校の釜山外国語大学日本語創意融合学部ではCan-do ステイトメントに基づく授業が行われていること
- ② 実習生は教壇実習の前に、学習者の多くが母語とする韓国語を学習すること
- ③ 今回に関しては、実習参加者は学部1年生から大学院生までと幅があり、日本語教育に関する知識や経験にばらつきがあること

上記の特徴を踏まえ、実習参加者が実習での目標を設定できるようになること、釜山外国語大学で行われているCan-do ステイトメントに基づく日本語教育をイメージできることを目標に事前学習が構成された。1回目は過去に自分が受けてきた言語教育を振り返りながらどのような日本語教師になりたいか考え、2回目には自身が韓国に行ったときに韓国語でできるようになりたいことを基にCan-do ステイトメントとは何か、それに基づく授業の組み立て方、教案の書き方について学習した。3回目にはペアまたは個人で作った教案へのフィードバックを行い、教育実習での目標及び行くまでの目標設定を行った。

### 2. 実習見学を通してみられたこと

実習生の中には事前学習の段階では自分が教師になるのだというイメージをつかみきれていない、実習を通して受け入れ先の先生方の授業や他の大学からの実習生を含む授業を見学し、実習生同士でフィードバックをし合うことで授業・教師のイメージが見えてきたようであった。教壇実習事前指導の際には自分で考えたアイデアを授業で具現化するためにどうしたらよいか、と相談する形で指導を受けようとする姿が見られ、主体的に取り組む様子が印象的であった。

また、直前まで韓国語を学習していた経験を日本語の授業を活かそうとする様子も見受けられた。自身が韓国語学習を通して知った日韓の類似点や相違点に着目して授業内容を考えたり、説明の際に韓国語・韓国文化の特徴を踏まえたりと様々な箇所韓国語学習の成果が実習に反映されていたようである。

実習中の担当教員からの指導として共通に見受けられたこと、そして実習生から挙げられた実習の困難点としては、Can-do から授業を作り上げること、授業中の各活動の目的・意義を明確にすること、授業中の教師の振る舞い、日本語表現の広げ方といった点が挙げられる。

実習生は自身がCan-doに基づく語学教育を受けたことがなく、また、日本語教育に関する知識・経験が十分でないなか、授業の作り方に悩んでいた。釜山外国語大学でもCan-do

に基づくカリキュラムになったのは 2013 年の過渡期を経て 2014 年からとのことで、先生方も試行錯誤を繰り返しながら取り組んでおられるというお話も伺った。お茶の水女子大学からの実習生は B1 か B2、つまりある程度日本語学習を積み重ねており、さらに比較的学習意欲のある学生が集まるクラスを担当することになるそうである。教科書、教材の指定はなく、A1 のような入門のクラスではある程度導入すべき言語項目が共通にあるが、レベルが上がると同じトピックでも想定される場面に幅が出てくるため、教師の力量が試される。釜山外国語大学では 1 週間でトピック 1 つ、という進め方をしているとのことで、今回の実習参加者でも同じレベル、同じトピックの授業を担当しているながらも、扱う内容・項目は実習生によって異なっていた。先生方が共通して指導されていたのは、釜山外国語大学で日本語を学ぶ学生が留学、就職といった日本への長期滞在、あるいは旅行のような短期滞在、そして韓国国内において実際に起こりうる、より具体的な日本語使用場面とそこで使用される言語項目を想定することである。今回の事前学習でも取り扱ったが、一度やればできるようになる、というものではないからこそ、次回以降も Can-do から場面を決めて文法、語彙を考えるという活動を通して場面想定と言語項目の選出について考える機会をもつことが求められる。特に言語項目の選出については時間と資源のある渡航前こそ、様々な教材に触れながら場面と言語をひもづける意識を持つことで少しでもイメージが湧きやすくなるのではないだろうか。

今回の事前学習では教案の書き方についても取り扱った。ひとつの例としてフォーマットを実習生に提示した上で、トピックを選択し教案を考えてもらったのだが、実習生にとっては、授業を考える、教案を書くということも初めてで時間の制限もあったため、教案にはどのような項目が含まれるのか知るといので終わってしまった。教壇実習の事前指導では授業中の各活動について実習生が相談すると先生方からは「なぜそれをするのか」と活動の目的・教育意義を幾度も問われていた。「目標-活動-評価」に一貫性があり、整合性が取れていることは重要である。実習生は先生方からの問いかけによって目標、目的を明確にすることで優先順位が決まり、授業内容を決めていくことができたようである。事前学習で少しでもこういった概念を知っておくことで自身の教案作成時のチェックポイントのひとつにすることができるだろう。授業を考えながら迷った時、困ったときの判断基準になるポイント、あるいは授業案ができたと思ってから確認すべきポイントが少しでもわかると客観的に判断できるようになるのではないだろうか。

授業中の教師の振る舞い、日本語表現の広げ方については教壇実習の事後指導で、授業中の具体的な教師の言動とそれに対する学生の反応から個々の事例に対してコメントされていた。声の大きさ、学生とのインターアクション、雰囲気作り方や質問の仕方、説明の適切さなどが該当する。振る舞いに関しては教師の個性に属する部分もあるが、授業中の教師の言動が学生に影響を与えるということを念頭においておく必要がある。他校の実習生を含め、多くの先生の授業を見学させていただける教育実習という機会だからこそ、先生方がどのような工夫をされているのか注目したいところである。釜山外国語大学での教育実習では実習生同士の授業見学の際にフィードバックが行われている。コメントを受けることで自分の授業の評価も得られるがそれと同時に見学者がどのようなポイントに着目しているのかを知ることができるだろう。渡航前の事前学習では、自分の授業について客観視するところまではできないかもしれないが、自分が受けてきた授業を振り返りながら授業見学の際の注目ポイントなどを整理できると限られた実習期間を有効に使えるのではないだろうか。

### 3. 終わりに

今回の実習見学を踏まえ、次回以降の事前学習に求められることをまとめると以下のよ

うになる。

- ① Can-do とトピックから具体的な場面と使用する言語項目を想定する練習をする
- ② 既存の日本語教材に触れながら言語項目がどのような場面で扱われているか参考に  
する
- ③ 教案の書き方、チェックポイントを整理する
- ④ 自分が受けてきた授業を振り返りながら授業見学で注目したいポイントを整理する

釜山外国語大学で行われている教育実習を見学し、先生方や実習生と意見交換をさせていただいたおかげで次回以降の事前学習で扱うべきことやその比重について把握することができた。次回以降の実習生にとって有益な事前学習になるよう、役立てていきたい。

最後に、実習に随行させていただいたとき、実習生たちが互いに協力し合いながら短期間で大きく変わっていく様子を間近でみせていただくことができたことは非常に嬉しくまた、励まされました。彼女たちが今後どのようなキャリアを選ぶのかわかりませんが、今回の経験は今後の人生に何かしらのかたちで活かされることでしょう。

今回の日本語教育実習事前学習を担当するにあたり、奥村三菜子先生、加納なおみ先生には様々なご指導をいただきました。ありがとうございます。実習中にはお忙しいなか私の質問に懇切丁寧に向き合っていたいただいた釜山外国語大学日本語創意融合学部の先生方、実習随行にあたり様々な手配をしてくださった国際教育センターのみなさま、未熟な私につき合ってくださった実習参加者のみなさん、そしてこのような機会を与えてくださった森山新先生にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

## 日韓がともに生きる起点となれ

森山新（お茶の水女子大学）

「日韓大学生国際交流セミナー」は、今年で12回目を数え、戦後ヨーロッパを戦争から共生へと導いた「複言語・複文化主義」の考え方に基づき、韓国の言語と文化を学び、日本の言語と文化を教えながら、東アジア人としての国際的な人材を育成するプログラムとして再出発した。参加者も8名に拡大した。

私とティーチングアシスタントの佐々木とは、6週間にわたる本プログラムの最終週に訪韓し、学生たちの教壇実習を見学した。釜山外大の各指導教員の細かな手ほどきのもとに、教案の作成から模擬授業、事後の振り返りと休む間もなく実習に励む学生の姿は時に痛々しくもあった。誰一人として、教壇に立ち、日本語を教えた経験のない学生たちは、連日、徹夜に近い準備を行い、最終週は4コマの授業全てを教員に代わって担当した。当初は緊張が肌で伝わる場面も多かったが、それでも綿密な準備を背景に、ある時は大胆に、ある時は堂々と、そして明るく、教壇実習をこなしていた。指導教員と本学スタッフの厳しい指導の中、時には涙し、くじけそうになることもあったが、それでも最後の最後まで明るさを失わずに、与えられた授業を全うした学生たちは立派だった。

今年度は日程最後の9月14日に、「第1回日韓学生フォーラム」を開催し、日韓が、そして東アジアがともに生きるために、若者は何ができるのか、対話と討論の場を持つことができた。まずは私が「東アジア共同体とナショナリズムを克服したグローバルな観点」という題名で本プログラムの趣旨を語り、その上で日韓の学生が、対立の過去をいかに共生の未来へと転換していくか、熱心な対話と熱い討論が交わされた。

釜山外大とは昨年度国際学術交流協定が締結されたが、交流は2007年より始まっていた。2007年から毎学期TV会議システムを活用した国際合同遠隔授業を行い、両国に横たわる様々な問題、ステレオタイプ、コンフリクトなどを日常的に取り扱ってきたのははじめ、2011年度からは、東日本大震災に端を発し、釜山外大からも学生を招き、世界8か国の学生が本学に一堂に会し、毎年「国際学生フォーラム」を開催、世界の災害に若者は何ができるかを話し合った。2015年には、戦後70年、日韓国交回復50周年を記念し、本学の学生35名を連れて釜山外大を始め韓国の3つの大学を訪問し、両国の過去、互いの良さ、そしてともに歩む未来について話し合った。そうした両大学による一連の歩みにとって、そして日韓、さらには東アジアにとって、今年度は非常に意義深い、重要な年になったと言っているであろう。

両国の学生たちは、ともに生きるための「複言語・複文化主義」に促され、ナショナリズムを克服し、積極的に交流を展開し、今まで以上に深い絆に結ばれ、再び釜山外大に留学したいと答える学生も現れた。釜山外大の教員、スタッフの方々も、そのように大きく変わりゆく本学の学生を見ながら、苦勞の多い本プログラムの開催に大きな手応えを感じていた。

複言語・複文化主義は、他の言語・文化を学ぶことを通じ、母語と母文化を中心に今まで当然視していた価値観を相対化し、他の文化に関心と敬意を持つことで、ナショナリズムを克服し、ヨーロッパが、そしてアジアがともに生きるための国際的なアイデンティティ構築に寄与するとされている。もちろん、知識として、またスキルとして他の言語・文化を学ぶだけで、このような変化を引き起こすことは難しいであろう。しかし、それを積極的に促す交流の場を提供し、お互いに対する愛情と尊敬の気持ちを育み、

正しい知識とナショナリズムを超えた視点に基づいて相互理解を深め、実際の行動を伴う全人的な交流を通じてであれば、対立を和解に、そして共生へと導く変化は着実に起こりうるということを今回のプログラムを通じて痛感している。

9月14日には、両校の今後の交流について釜山外大の教員、および国際交流チームの方々と話し合いの場が持たれ、より積極的で深化した交流を進めていくことで合意した。その場では、今年、プログラムによって大きく成長した本学の学生の姿が釜山外大のスタッフから語られた。

釜山の地はこれまで、日本と韓国の間であって、いくつもの悲しみといくつもの喜びを経験してきた。豊臣秀吉の時代にはまずもって日本の被害に合い、その後徳川幕府の関係修復により、朝鮮通信使派遣の起点となった。しかし植民地時代には、歌「釜山港に帰れ」にあるように、多くの民が日本へと連行される悲劇の舞台となった。そうした悲しみを乗り越えながら、釜山は今、日本と韓国、そして東アジアをつなぐ基点として生まれ変わろうとしている。釜山外大には「アジア共同体研究所」が設けられ、毎年「アジア共同体論」という授業が行われている。また釜山外大は、ヨーロッパが欧州共同体建設のために策定した「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」の指導法をいち早く採用し、日本語教育を行っている。私が釜山外大に注目し、協定締結にこぎつけ、交流を開始した理由がそこにある。

今回築いた重要な一歩を、今後さらに発展させ、近い将来、東アジアがともに生きる未来をこの学生たちの手で作りあげられることを祈り、期待してならない。

今回、このように貴重な進歩を遂げることができた背景には、様々な形でプログラムを提供して下さった、釜山外大の日本語創意融合学部の諸先生、国際交流チームのスタッフのご尽力があつてのことである。この場を借りて心から感謝したい。

# 東アジアシティズンシップ教育としての 複言語・複文化プログラム — その成果と課題 —

森山新（お茶の水女子大学）

## 1. はじめに

我々が住む日本、韓国などが位置する東アジアには、残念ながらヨーロッパの欧州連合（EU）のような、ともに生きるための地域連合体がなく、それをめざすための教育理念や教育政策も存在していない。また各国首脳が打ち出す様々な政策や談話を見る限り、今も絶えることのない国家間の対立を政治によって解決できるという実感も感じられない。そのような中、本学は協定校である釜山外国語大学校の協力のもと、対立の絶えない日韓、そして東アジアがともに生きることをめざし、2016年度からこの「複言語・複文化プログラム」を立ち上げた。本研究はその内容について紹介し、その成果と残された課題を明らかにすることを目的としている。

## 2. 先行研究

欧州の共同体建設でその土台を築いた言語教育政策の決定において重要な役割を果たしてきたByramは、その著書Byram (2008)において、国語教育を通じてナショナル・アイデンティティが構築される（第二次社会化）のに対し、外国語教育は、そのナショナルな視点を脱中心化・相対化し、超国家的なアイデンティティ構築に寄与（第三次社会化）し、国家、文化を超えたシティズンシップを育む力を有するとしている。また、外国語教育が国家や文化を超えたアイデンティティを構築するには、言語能力やスキルを育むだけでなく、文化教育、政治教育を取り込む必要性を主張している。

もし彼の主張が正しいとすれば、このような新たな形態の外国語教育の推進は、東アジア諸国がともに生きるために必要な、超国家的なアイデンティティやシティズンシップの構築に寄与しうる可能性がある（少なくとも、重要な理論的枠組みやデータを提供してくれる）と考える。このような可能性については、Byram, Golubeva, Hui and Wagner (2016)などでいくつか実証的な研究事例があるが、十分とは言い難く、かつそれがそのまま東アジアにも応用可能であるといえる保証もない。さらに近年多発する欧州統合に逆行するような出来事は、その理論的枠組みや実践に未だ課題や再考の余地が残されていることを実感させる。

一方、我々の住む東アジアに目を転じると、「ともに生きる」ための外国語教育の実践は、森山の一連の教育実践（表1）のほか、九州大学の日韓海峡圏カレッジ、アジア太平洋カレッジなど、いくつか行われてはいるが、研究というレベルでは森山（2016）などがあるものの少なく、それらの研究においても、実践前後のアンケート結果やレポートの次元にとどまっているのが実情で、その成果を客観的、実証的に提示したり、東アジアがともに生きるための言語教育政策の基礎研究としたりするには限界がある。

また東アジアの外国語教育は、そのほとんどが国家戦略のもと、自国のグローバル力強化が主たる目的となっており、それは時として国家間の対立を煽り、「ともに生きる」という理念とは相容れないものとなっている。このように東アジアが置かれた状況は、欧州と

は様々に様相を異にしており、東アジアをコンテクストにした場合、欧州をコンテクストに得られた研究・実践の成果をそのまま活用することができるのか、できないとすれば、東アジアの特殊事情を考慮し、どのような変更を加える必要があるのか、などの点を明らかにする必要がある。

表1 森山がお茶の水女子大学で実施してきた実践活動一覧

|   |
|---|
| 日韓大学生国際交流セミナー（日韓、2004年～）<br>国際学生フォーラム（8か国：日・韓・中・泰・米・独・チェコ・ポーランド、2012年～）<br>サイバーコンソーシアム結成とTV会議システムによる国際共同授業（8か国、2007年～）<br>豪・米・独における日本語教育実習（日豪・日米・日独、2012年～）<br>韓国における複言語・複文化教育プログラム（日韓、2016年～）<br>東アジアの共生を旨とする日韓学生フォーラム（日韓、2017年～）<br>北米地域との青少年交流事業（日米、2014年）<br>*各報告書は <a href="http://www.li.ocha.ac.jp/ug/global/mrs/">http://www.li.ocha.ac.jp/ug/global/mrs/</a> で公開 |
|---|

### 3. 複言語・複文化教育プログラム概要

本稿で紹介する複言語・複文化教育プログラムは、本学から8名の学生が参加し、8月7日から9月16日までの6週間、釜山外国語大学（以下、「釜山外大」）で行われた。最初の3週間は釜山外大主催の韓国語研修プログラムに参加、韓国語・韓国文化を学び、9月3日から15日までの2週間は釜山外大主催の日本語教育実習に参加、指導教員のもと、日本語と日本文化を教える実践をした。9月14日には6週間に及ぶセミナーの集大成として、日韓の学生が集い「日韓学生フォーラム」を開催、「東アジア共同体とナショナリズムを克服したグローバルな観点」という題目で、筆者が基調講演を行ったあと、日韓両国の学生がグループに分かれ、「東アジアがともに生きるために日韓の若者は何をすべきか、または何ができるか」をテーマに、対話の時間を持った。

本プログラムでは、4月に参加者を募集、5月～7月には毎週事前学習を行った。事前学習では、本複言語・複文化教育プログラムの理念である「複言語・複文化主義(plurilingualism, pluriculturalism)」「インターカルチュラル・シティズンシップ教育(intercultural citizenship education)」としての外国語教育を学び、その上で釜山外国語大学が採用している「ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)」や「CAN-DO ステートメント」を紹介、それらに基づいた具体的な教案作成の方法などを学び、実際の教壇実習に臨んだ。

### 4. 研究方法

実習参加者にはプログラム終了後、「韓国のことばと文化を学んで」「日本語教育実習」「複言語・複文化教育プログラムについて」「その他」の4章からなるレポートを提出してもらい、その内容を質的に分析した。

### 5. 結果と考察

#### 5.1 プログラムの成果

その結果、プログラムの成果に関しては、「現地で学ぶ意義」「韓国語学習の向上」「韓国文化への理解」「言語学習から異文化理解へ」「双方向性」「対等性」「脱中心化」「超国家的アイデンティティの獲得」「共生意識の深まり」「将来の行動への動機づけ」という構成概念が抽出された。以下、それぞれについて詳しく見ていくことにする。なお、構成概念のあとの（ ）内の数字は重複する回答数を示す。



### 5.1.1 留学の意義

#### ① 現地で学ぶ意義

「現地で学ぶことの重要性」「実感を伴った学び」が報告され、韓国に行き、実体験を伴った学びの意義が報告された。

### 5.1.2 韓国の言語・文化の理解

#### ② 韓国語学習の向上

「動機づけの強化 (2)」「学習意欲の向上」「韓国語で思考できるようになる」「伝えようとする積極性の付与」など向上が見られた。

#### ③ 韓国文化への理解

「差異の気づき (2)」から始まり、「異文化を受容することの困難性」を感じつつも徐々に「ステレオタイプの打破」「負のイメージ払拭」がなされ、「魅力の実感」「親近感の増進」「親睦の深化」「相互理解の深化 (2)」など、理解が深化した。

#### ④ 言語学習から異文化理解へ

「言語学習から異文化理解への正の影響」が示され、言語を学ぶことで文化理解が深まった。

### 5.1.3 複言語・複文化からシティズンシップ教育へ

#### ⑤ 双方向性・対等性

「双方向的姿勢の堅持」「言語学習の双方向性」「双方向の交流により言語教育に対する認識の変化」「教師から学生への一方向からともに学ぶ教育へ」など、学び教えるプログラムの双方向性、対等性は次で述べる「脱中心化」を促進したと思われる。

#### ⑥ 脱中心化

「自文化の客体化」「自他文化を客観的に見つめる視点」「視点の多様性の認識 (2)」など、自文化を脱中心化、客体化し、自他の文化をクリティカルに見つめることにつながった。

#### ⑦ 超国家的アイデンティティの獲得・共生意識の深化

「超国家的アイデンティティの獲得」「東アジア人としてのアイデンティティ構築」「心理的距離の縮まり」「ともに生きたいという思い増加」と、超国家的アイデンティティ構築と、ともに生きようとする共生意識が生まれ深化していた。

#### ⑧ 将来の行動への動機づけ

さらにこうした自己意識の変化は、「架け橋としての行動の動機づけ付与」「交流促進行動の開始 (3)」「関係改善の行動への着手」など将来の行動の動機づけを付与した。また「日本語教師の魅力の実感」を報告し、キャリア形成につながった学習者もあった。

## 5.2 残された課題

残された課題には大きく、「自分自身に対する課題」と「プログラムに対する課題」とが報告された。前者は「韓国に対する理解不足」「韓国語使用に対する積極性の不足」が、後者には「言語教育プログラムに対する課題」と「シティズンシップ教育（政治教育）プログラムに対する課題」とが抽出された。「言語教育プログラムに対する課題」としては、日本語を使用する機会に比べ、韓国語を使用する機会が少なかったという「(日韓の) 言語的対等性の欠如」「(韓国語の) 言語使用の機会の欠如」「韓国語・韓国文化プログラムと日本語教育実習プログラムの一体性の弱さ」が指摘され、「シティズンシップ教育プログラムに対する課題」としては、「日韓関係の難しさの再認識」「共生を考える場・時間の不足」「反日・嫌韓学生を巻き込んだ交流の必要性 (4)」などが報告された。

## 6. おわりに

今回の複言語・複文化プログラムについての評価では、レポートの「複言語・複文化プログラムについて」に明示的に示されることが多かったが、それを見ると、複文化的側面からは、概ね「達成できた」といった声が多く聞かれたものの、複言語的側面からは、「韓国語使用場面の不足 (2)」などの理由から、十分とは言えなかった。また、「シティズンシップ教育 (政治教育)」の側面では、新たに「日韓学生フォーラム」を実施したものの、通常の生活では歴史問題、日韓関係などのタブーとされる問題について考えたり討論を行ったりする場面は多いとは言えず、課題を残した。こうした残された課題が、参加者全員をして、超国家的アイデンティティの構築や、東アジア人としての自覚、さらには共生意識の芽生えに至らなかった原因であろうかと思われる。将来、これらの点が克服されていけば、本プログラムは、東アジアがともに生きるためのシティズンシップ教育、共同体建設の土台となる、言語教育プログラムとなりうるのではないかと考えている。

## 参考文献

- Byram, M. (2008). *From Foreign Language Education to Education for International Citizenship*. Clevedon: Multilingual Matters.
- Byram, M., Golubeva, I. Hui, H. and Wagner, M. (eds.) (2016). *From Principles to Practice in Education for Intercultural Citizenship*. Clevedon: Multilingual Matters.
- 森山新 (2016) 「第 15 章 シティズンシップ教育としての複言語・複文化教育」『第二言語としての日本語習得研究の展望：第二言語から多言語へ』ココ出版

注) 本内容は大韓日語日文学会第 59 回秋季国際学術大会において森山により発表され、同予稿集に掲載されたものである。

## 編集後記

第12回日韓大学生国際交流セミナーは、未来への第一歩となる重要なセミナーとなった。2004年に始まり、これまで11回にわたって日韓両国の間に存在していた様々な「過去」を克服する努力を続けてきたが、今回はその基盤の上で、互いのことばと文化を学び教える、言語教育をもって前に進む第一歩を築いた。本報告書が今後のセミナーの発展、さらには両国の交流の発展につながれば幸いである。

～複言語・複文化教育と東アジア共生の可能性～

～第12回 日韓大学生国際交流セミナー報告書～

発行年月日 2018年3月30日

発行 お茶の水女子大学日本語教育コース・グローバル文化学環・国際教育センター

住所 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

電話&FAX 03-5978-5691

<http://www.cf.ocha.ac.jp/gec/>

発行協力 釜山外国語大学校

住所 〒608-738 釜山広域市南区石浦路 15

編集 森山新・野村琴菜（お茶の水女子大学）

印刷 よしみ工産





第12回日韓大学生国際交流セミナー